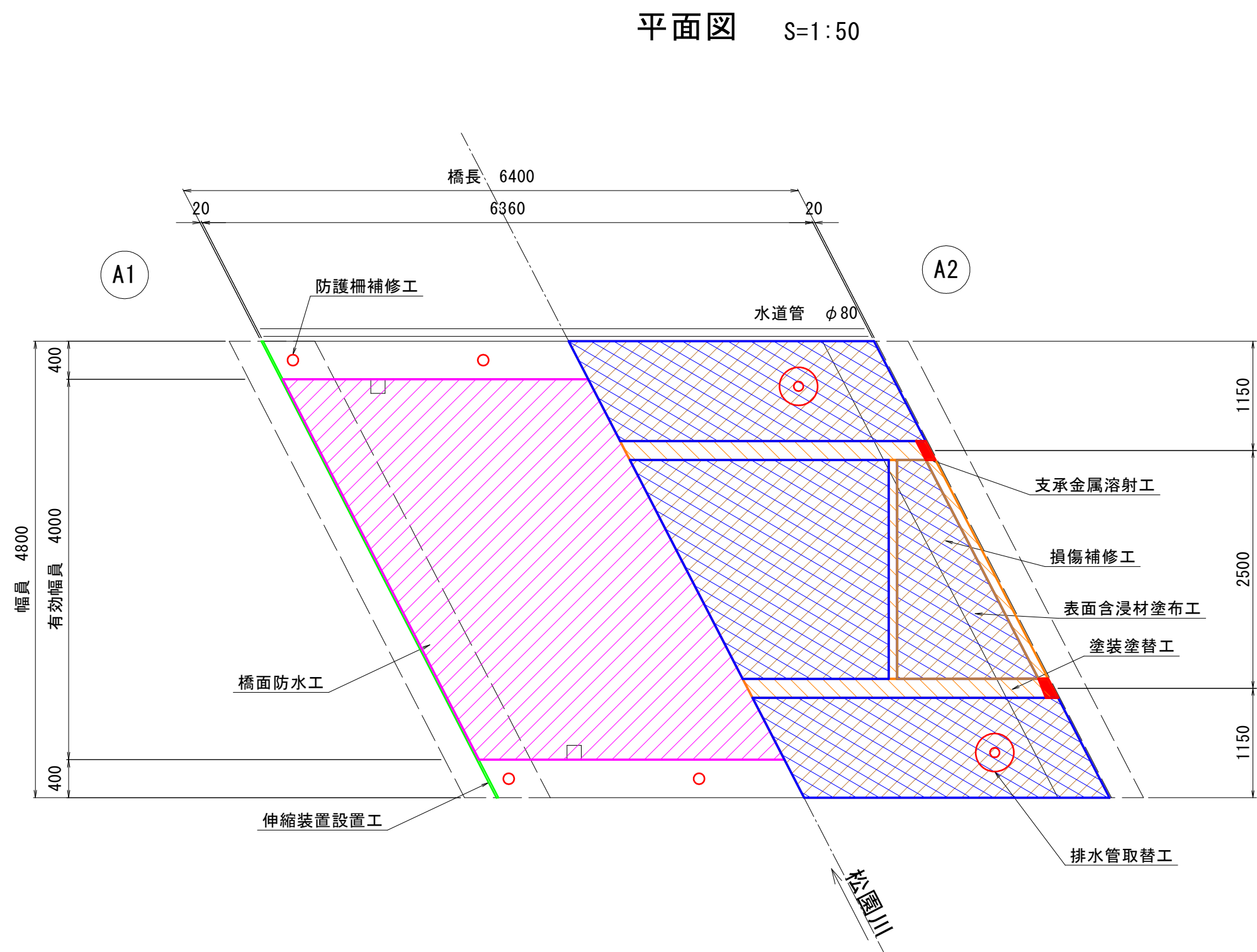
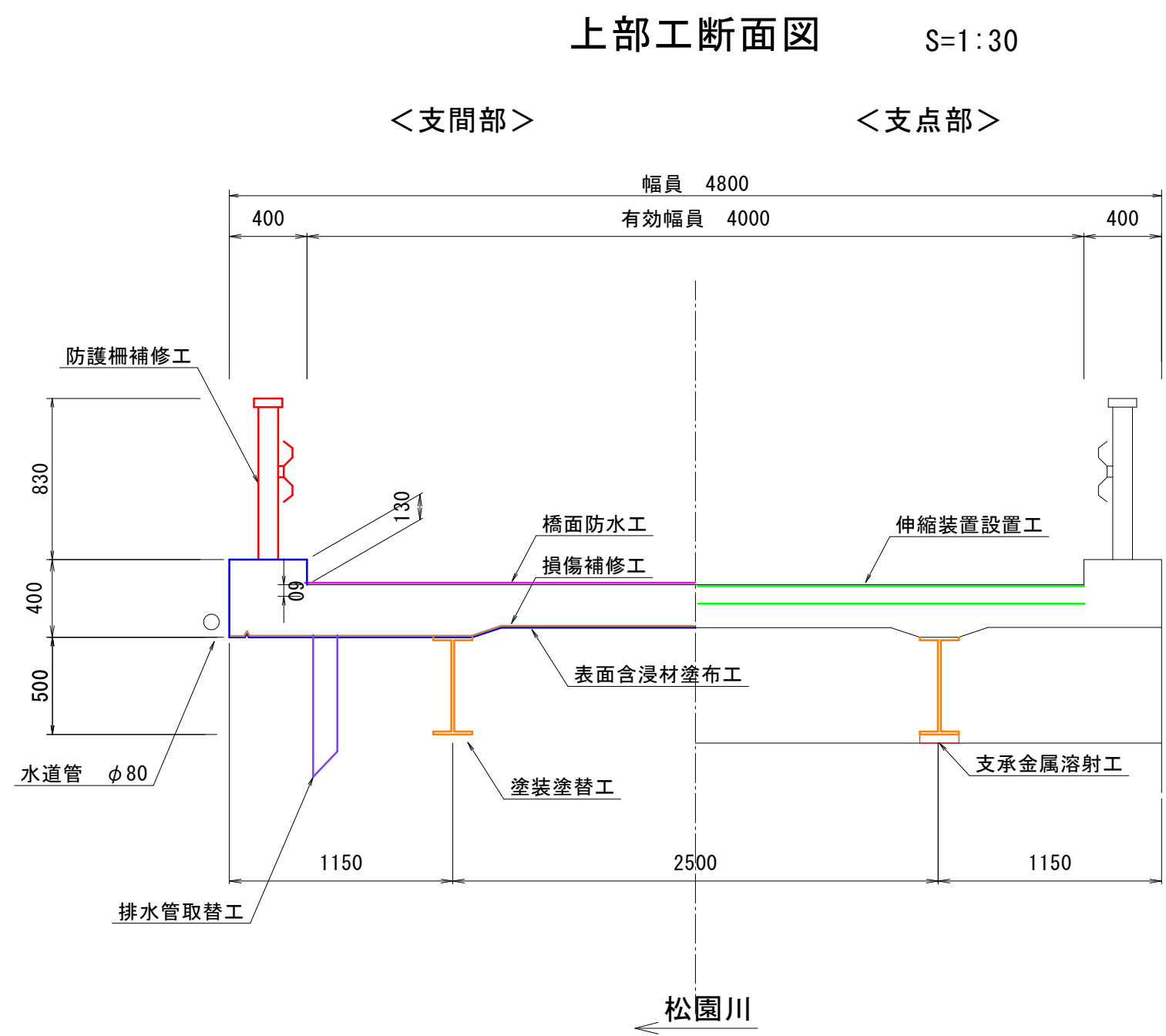
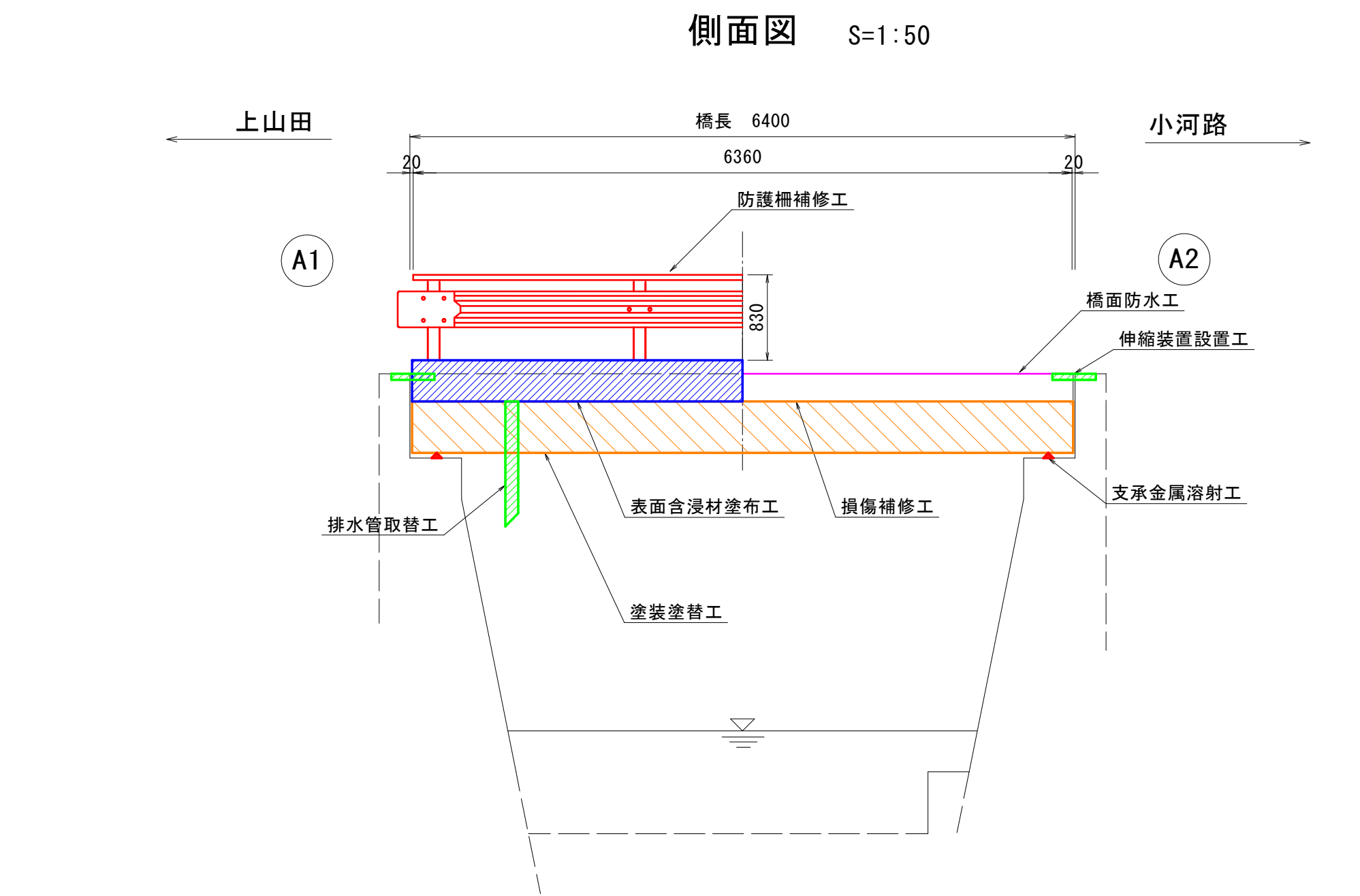


勢面野橋 補修計画一般図



橋梁設計条件

橋名	勢面野橋
路線名	田之頭線
橋長	L=6.4m
幅員	W=4.8m(有効幅員:4.0m)
上部構造形式	単純鋼 H桁橋
下部構造形式	橋台:重力式橋台
基礎形式	不明
竣工年度	1980年[昭和55年](経年43年)
適用示方書	道路橋示方書 I 共通編 (昭和48年) II 鋼橋編 (昭和48年) 道路橋下部構造設計指針 (昭和43年)

補修工一覧表

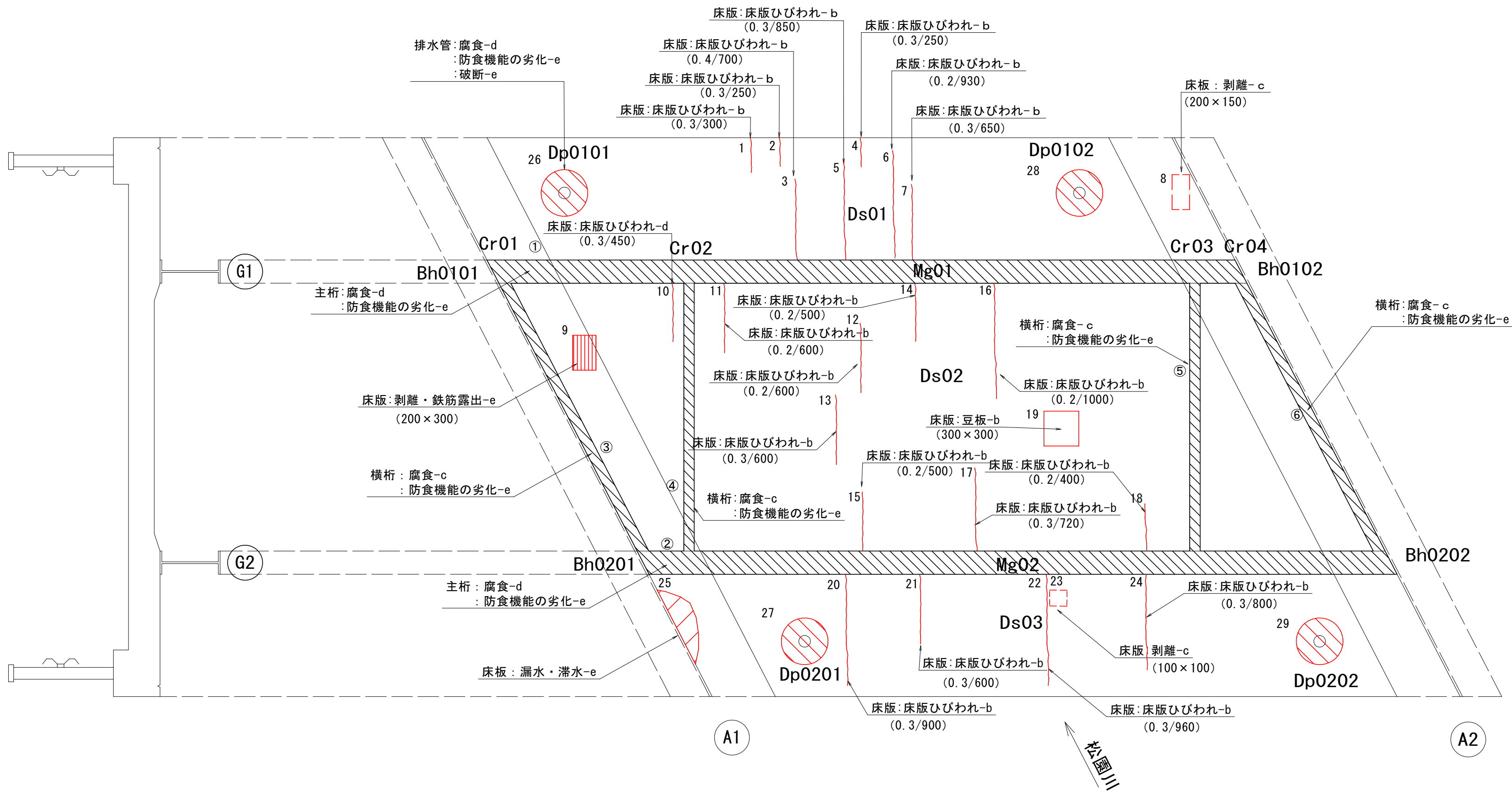
工種	仕様	部材
損傷補修工	ひび割れ注入工 断面修復工	床版
塗装塗替工	Rc-I 塗装系	主桁・横桁
支承金属溶射工		支承
表面含浸材塗布工	シラン・シロキサン系	床版・地覆
伸縮装置設置工	埋設型	A1・A2橋台
橋面防水工	サーフトリート工法	橋面
防護柵補修工	部材取替工 塗装塗替工	防護柵
排水管路取替工	VP管	排水管
仮設工	吊足場 防塵対策	

南九州市

工事名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋補修工事
河川・路線名	田之頭線
工事箇所	南九州郡川辺町上山地内
図面種類	勢面野橋 補修計画一般図
縮尺	図示
図面番号	全 10 葉 第 1 号

勢面野橋 損傷補修工図 (1/3)

桁下面 S=1:30



1) ひびわれ注入工 数量表

ひびわれ (0.2mm≦W≦0.5mm)						
番号	幅 (mm)	長さ (m)	補修	番号	幅 (mm)	長さ (m)
床版Ds01			○	床版Ds02		
1	0.30	0.30	○	18	0.20	0.40
2	0.30	0.25	○	床版Ds03		
3	0.40	0.70	○	20	0.30	0.90
4	0.30	0.25	○	21	0.30	0.60
5	0.30	0.85	○	22	0.30	0.96
6	0.20	0.93	○	24	0.30	0.80
7	0.30	0.65	○			
床版Ds02						
10	0.30	0.45	○			
11	0.20	0.60	○			
12	0.20	0.60	○			
13	0.30	0.60	○			
14	0.20	0.50	○			
15	0.20	0.50	○			
16	0.20	1.00	○			
17	0.30	0.72	○			
小計		8.90		小計		3.66
			合計			12.56

2) 断面修復工 (防錆処理あり) 数量表

剥離・鉄筋露出・うき			
番号	面積 (m2)	補修	番号
床版Ds02			
9	0.06	○	
合計	0.06		

3) 断面修復工 (防錆処理なし) 数量表

剥離・欠損			
番号	面積 (m2)	補修	番号
床版Ds01			
8	0.03	○	
床版Ds02			
19	0.09	○	
床版Ds03			
23	0.01	○	
合計	0.13		

損傷補修工 数量計算

(1橋当り)

項目	仕様	計算式	単位	数量
ひび割れ注入工	幅0.2~1.0mm未満 平均ひび割れ幅0.3mm	数量表より	m	12.6
	注入材	エポキシ樹脂系		
	必要注入量	比重 1.150kg/m3 想定ひび割れ深さ0.05m 0.0003×0.05×12.56×1150=0.217 ロス率15% 0.217×1.15=0.25	kg	0.22
	シール材	比重1.700kg/m3 0.03×0.002×12.56×1700=1.281 ロス率37% 1.281×1.37=1.75	kg	1.28
	注入器具	間隔 250mm 12.56/0.25=50.2	本	51
断面修復工	防錆処理あり	数量表より	m2	0.06
	ポリマーセメント モルタル	はつり深さ 50mm 0.06×0.05=0.003 ロス率18% 0.003×1.18=0.004	m3	0.003
断面修復工	防錆処理なし	数量表より	m2	0.13
	ポリマーセメント モルタル	はつり深さ 30mm 0.13×0.03=0.004 ロス率18% 0.004×1.18=0.005	m3	0.004

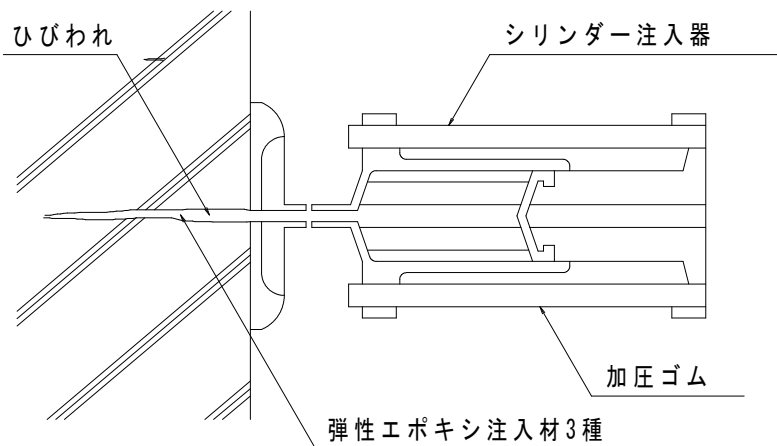
※1 主桁・横桁の腐食は塗装差替工にて対応
※2 排水管の腐食は排水管設置工にて対応
※3 伸縮装置からの漏水・帯水は伸縮装置設置工にて対応

【注記】
1) 損傷の大きさ・箇所は施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
2) 新たな劣化部が確認された場合は、別途補修数量を計上すること。
3) 断面修復の深さは、はつり調査からの想定である。これより深い場合であっても、鉄筋径の中心程度まではつり取ってから、補修を行うこと。

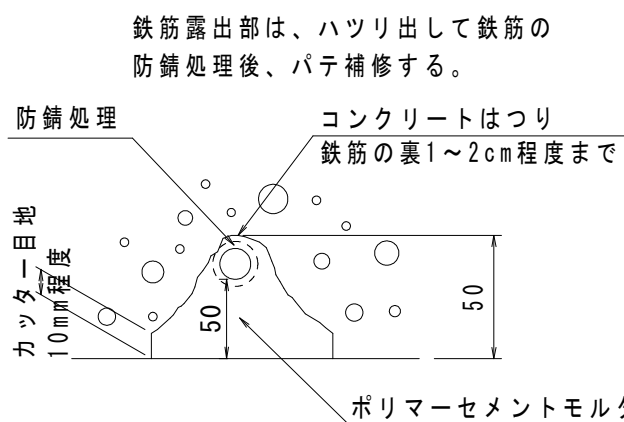
損傷の判例

損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ		漏水	
剥離		腐食	
鉄筋露出		うき	
遊離石灰		その他	

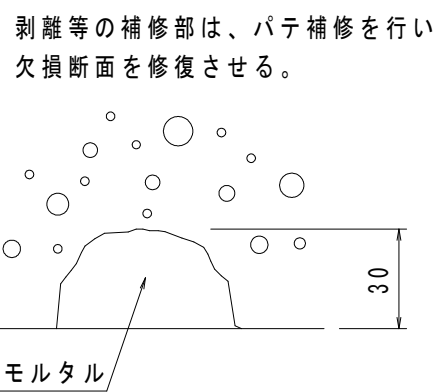
1) ひび割れ注入工



2) 断面修復工
損傷 (鉄筋露出、うき)
防錆処理あり



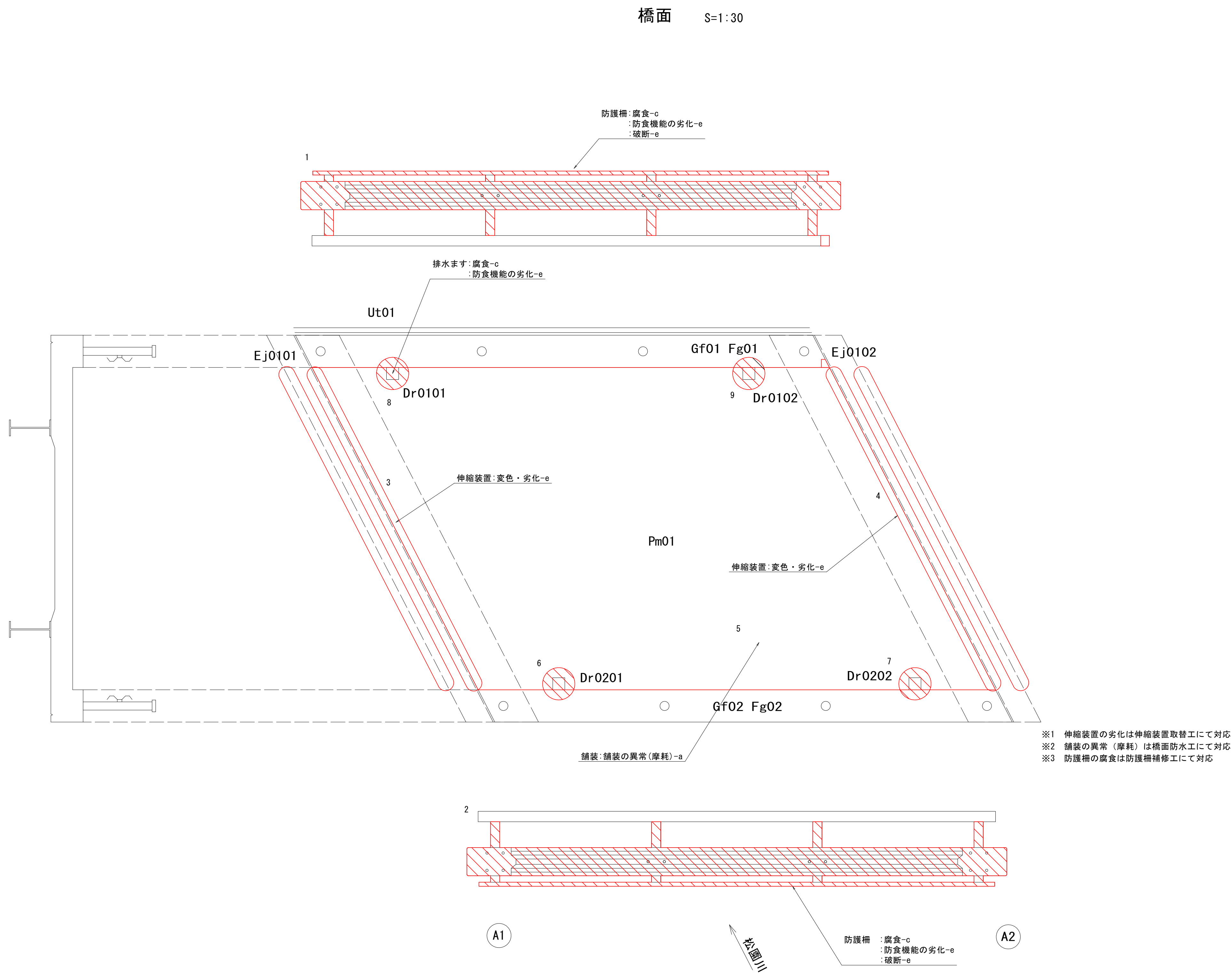
3) 断面修復工
損傷 (剥離、欠損)
防錆処理なし



南 九 州 市

工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋補修工事
河川・路 線 名	田 之 頭 線
工 事 箇 所	南九州 郡 川辺 町 上山地内
図 面 種 類	勢面野橋 損傷補修工図 (1/3)
縮 尺	図 示
図 面 番 号	全 10 葉 第 2 号

勢面野橋 損傷補修工図 (2/3)



※1 伸縮装置の劣化は伸縮装置取替工にて対応
※2 舗装の異常(摩耗)は橋面防水工にて対応
※3 防護柵の腐食は防護柵補修工にて対応

注記)
1) 損傷の大きさ・箇所は施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
2) 新たな劣化部が確認された場合は、別途補修数量を計上すること。
3) 断面修復の深さは、はつり調査からの想定である。これより深い場合であっても、鉄筋径の中心程度までのはつり取ってから、補修を行うこと。

損傷の判例			
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		漏 水	
剥 離		腐 食	
鉄筋露出		う き	
遊離石灰		そ の 他	

南 九 州 市	
工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋補修工事
河川・路 線 名	田 之 頭 線
工 事 箇 所	南九州 郡 川辺 町 上山地内 (市) 村
図 面 種 類	勢 面 野 橋 損 傷 補 修 工 図 (2 / 3)
縮 尺	図 示
図 面 番 号	全 10 葉 第 3 号

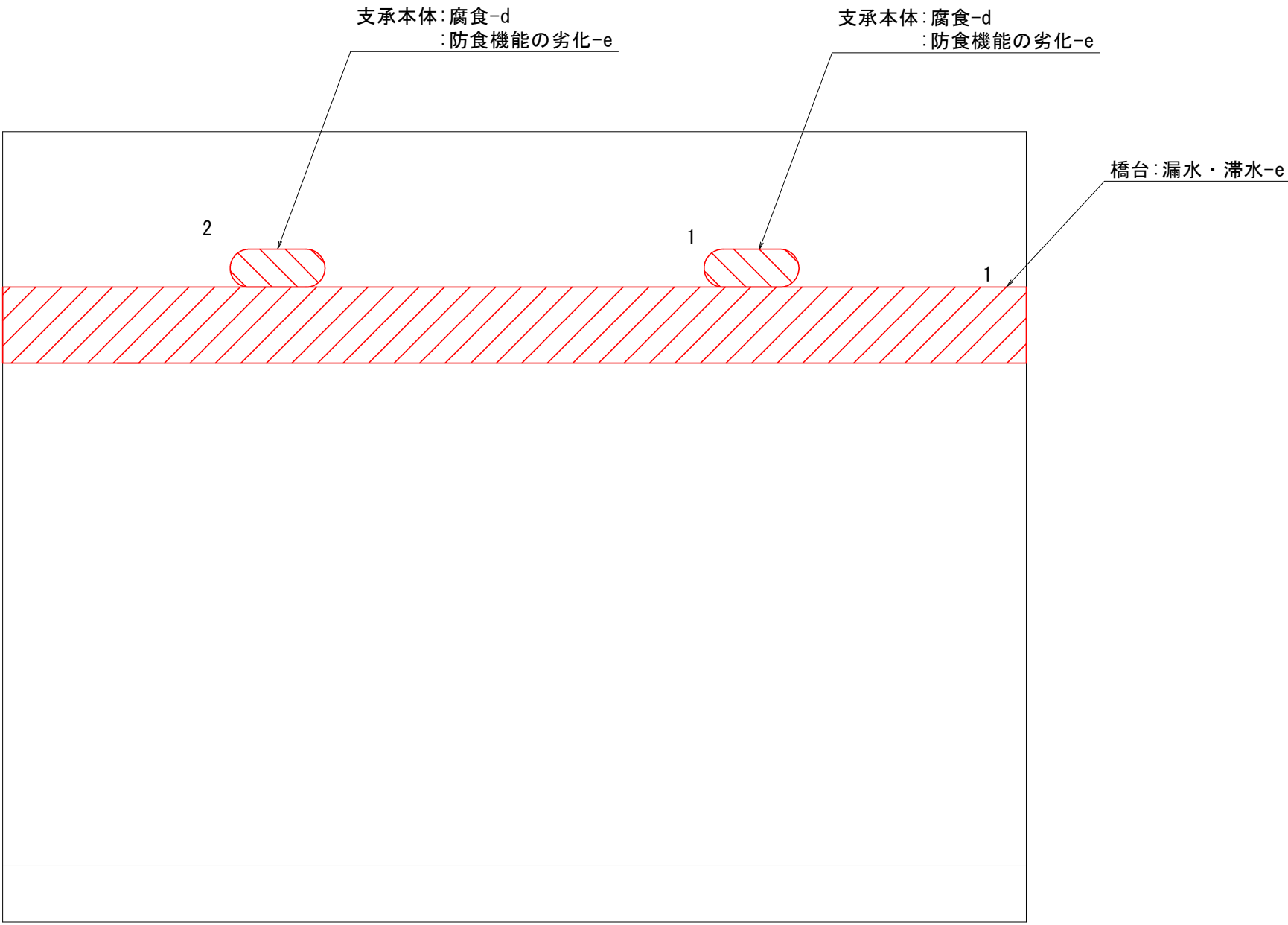
勢面野橋 損傷補修工図（3/3）

下部工 S=1:30

A1橋台

上 流

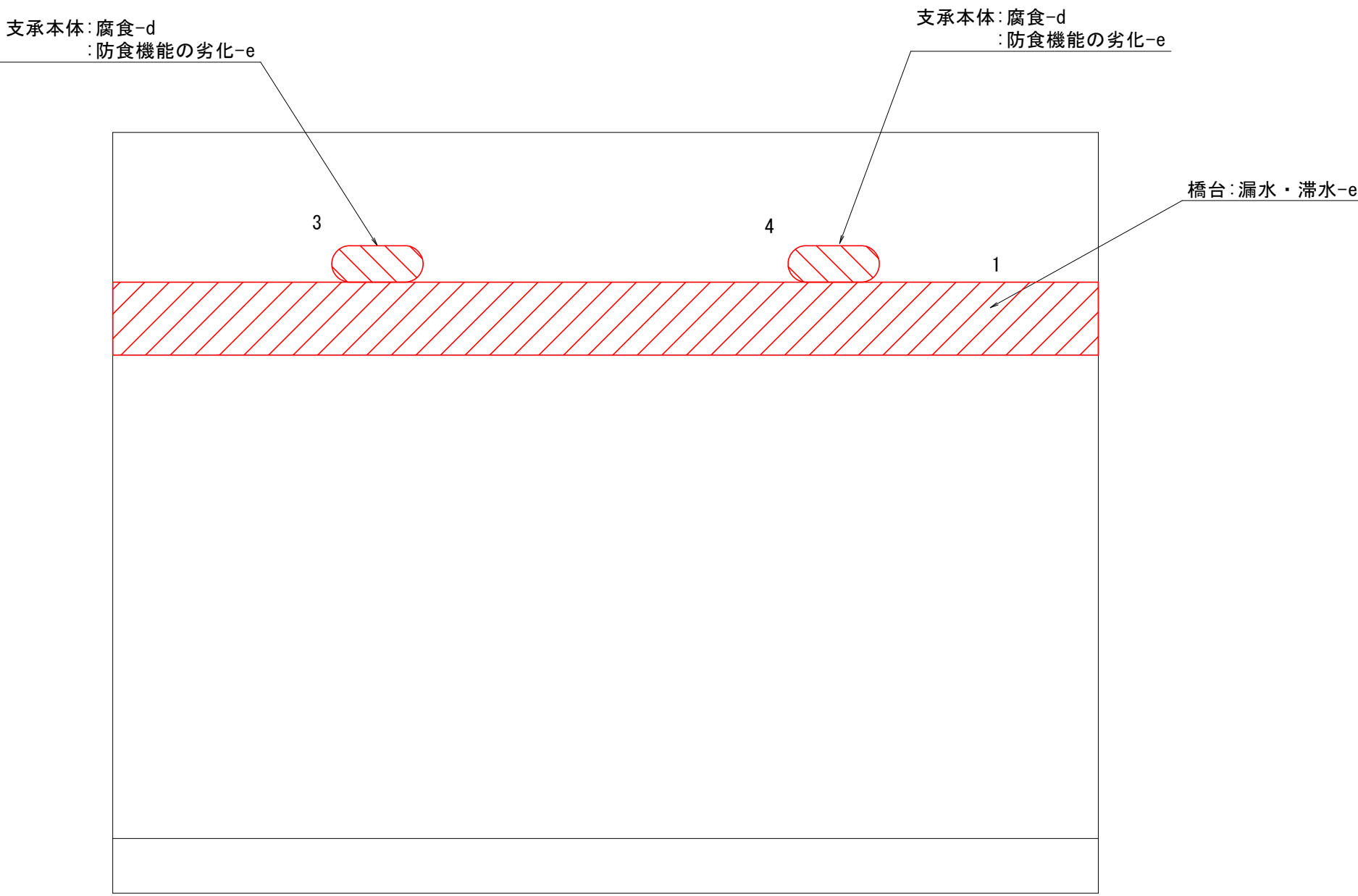
下 流



A2橋台

下 流

上 流



※1 漏水・帯水は伸縮装置取替工にて対応
※2 支承の腐食は支承金属溶射工にて対応

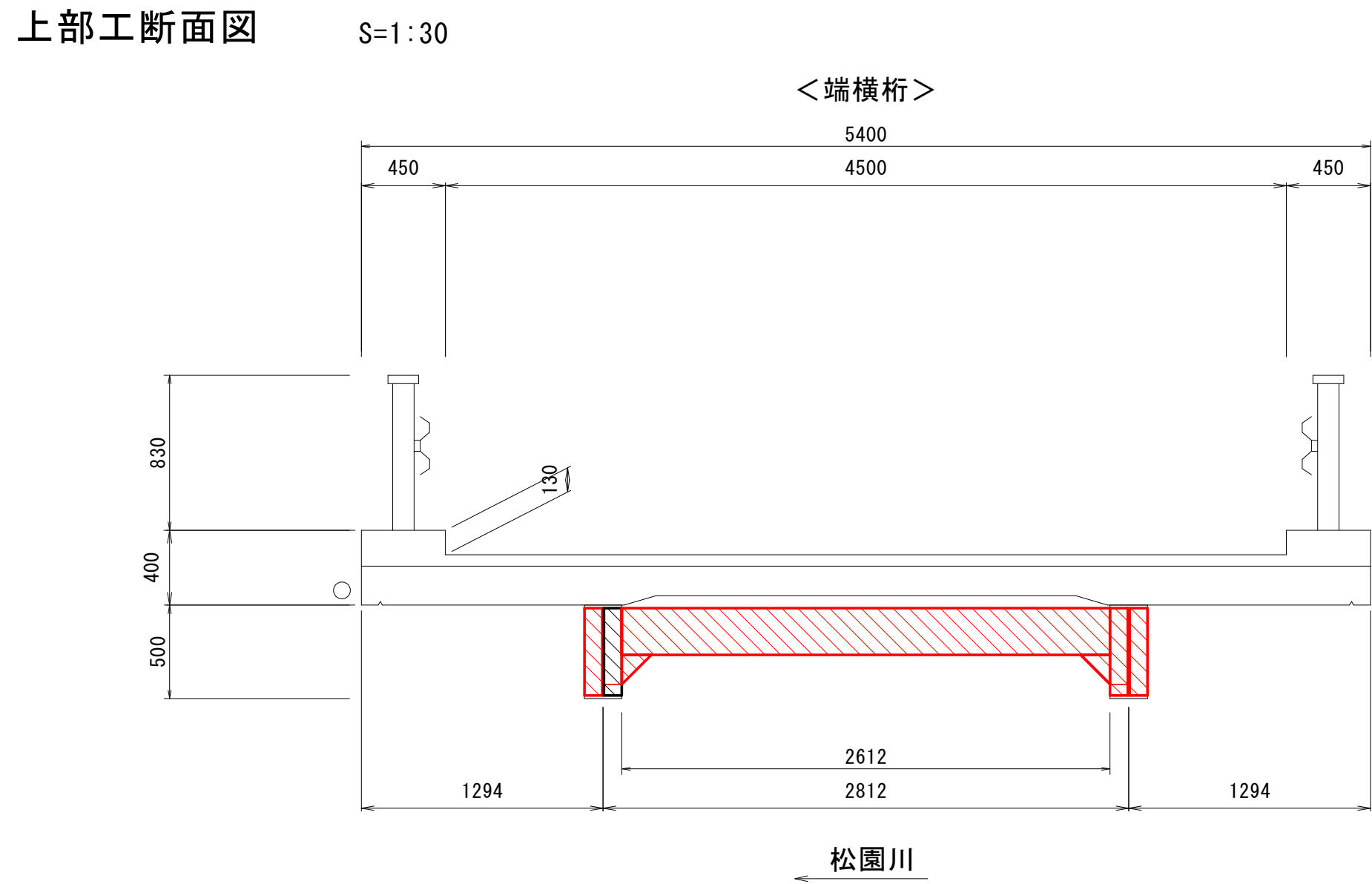
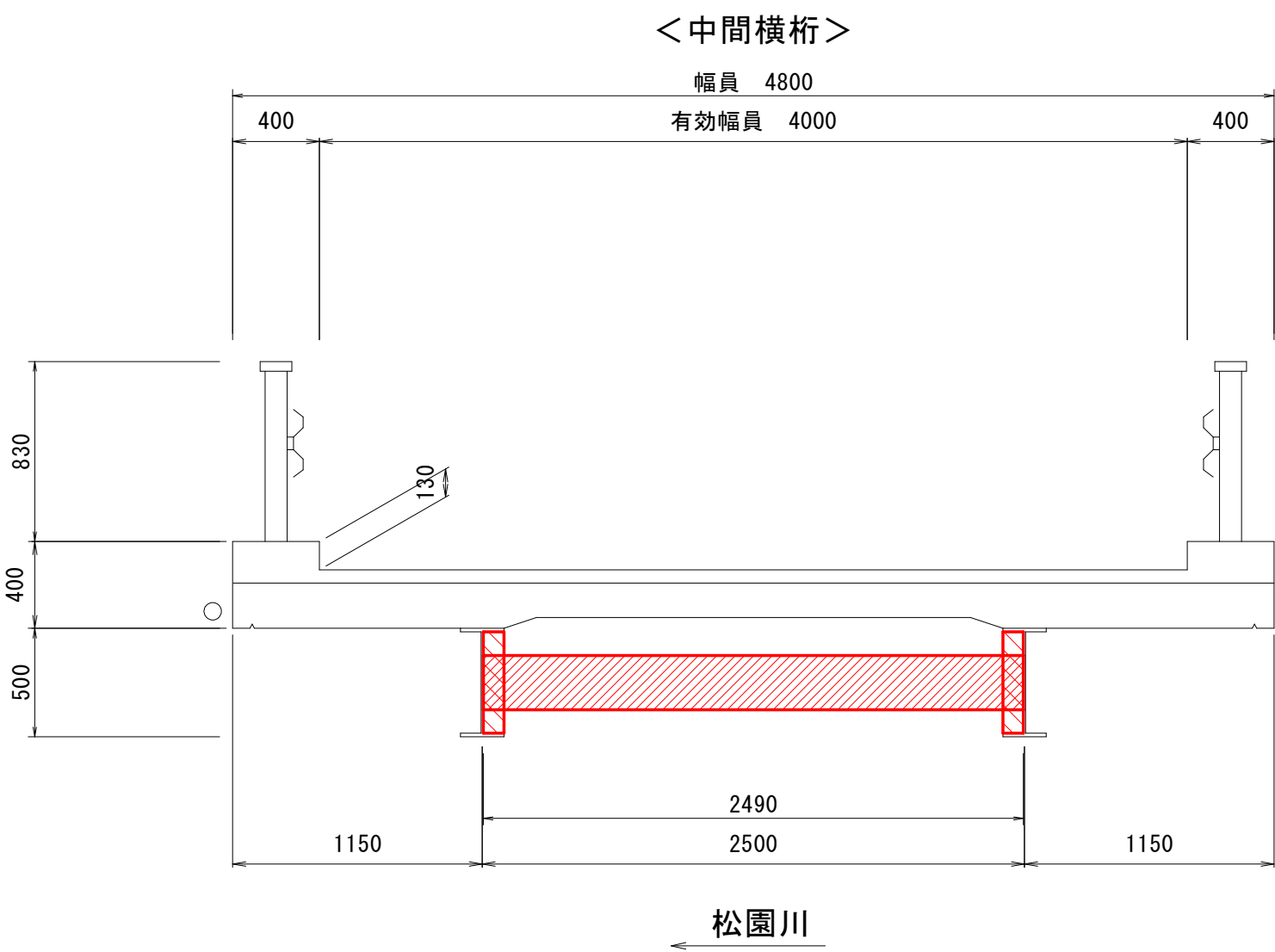
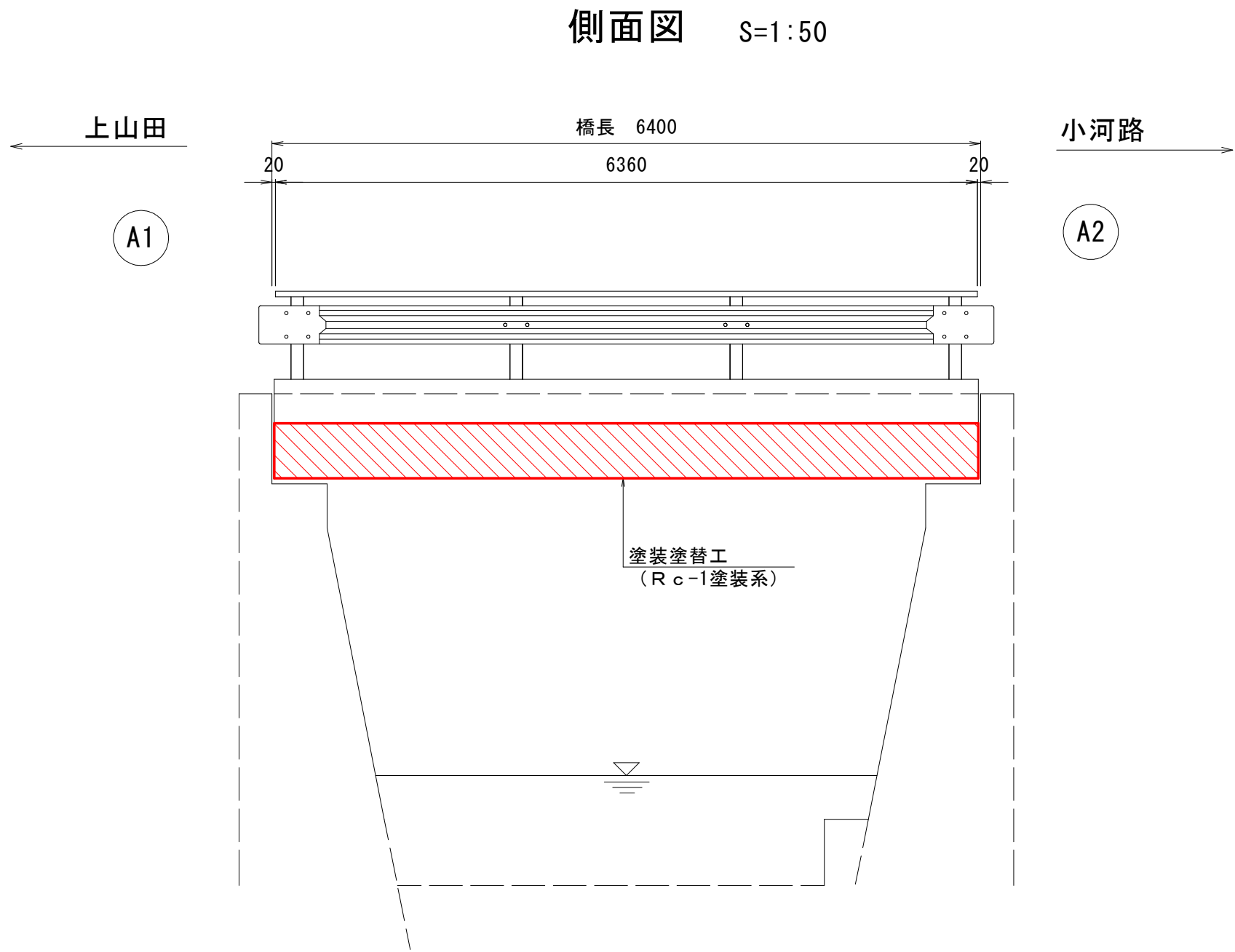
注記)
1) 損傷の大きさ・箇所は施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
2) 新たな劣化部が確認された場合は、別途補修数量を計上すること。
3) 断面修復の深さは、はつり調査からの想定である。これより深い場合であっても、鉄筋径の中心程度までのはつり取ってから、補修を行うこと。

南 九 州 市	
工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野補修工事
河川・路線名	田 之 頭 線
工事箇所	南九州 郡 川辺 町 市 上 山 田 地 内
図面種類	勢 面 野 橋 損 傷 補 修 工 図 (3 / 3)
縮 尺	図 示
図面番号	全 1 0 葉 第 4 号

損傷の判例

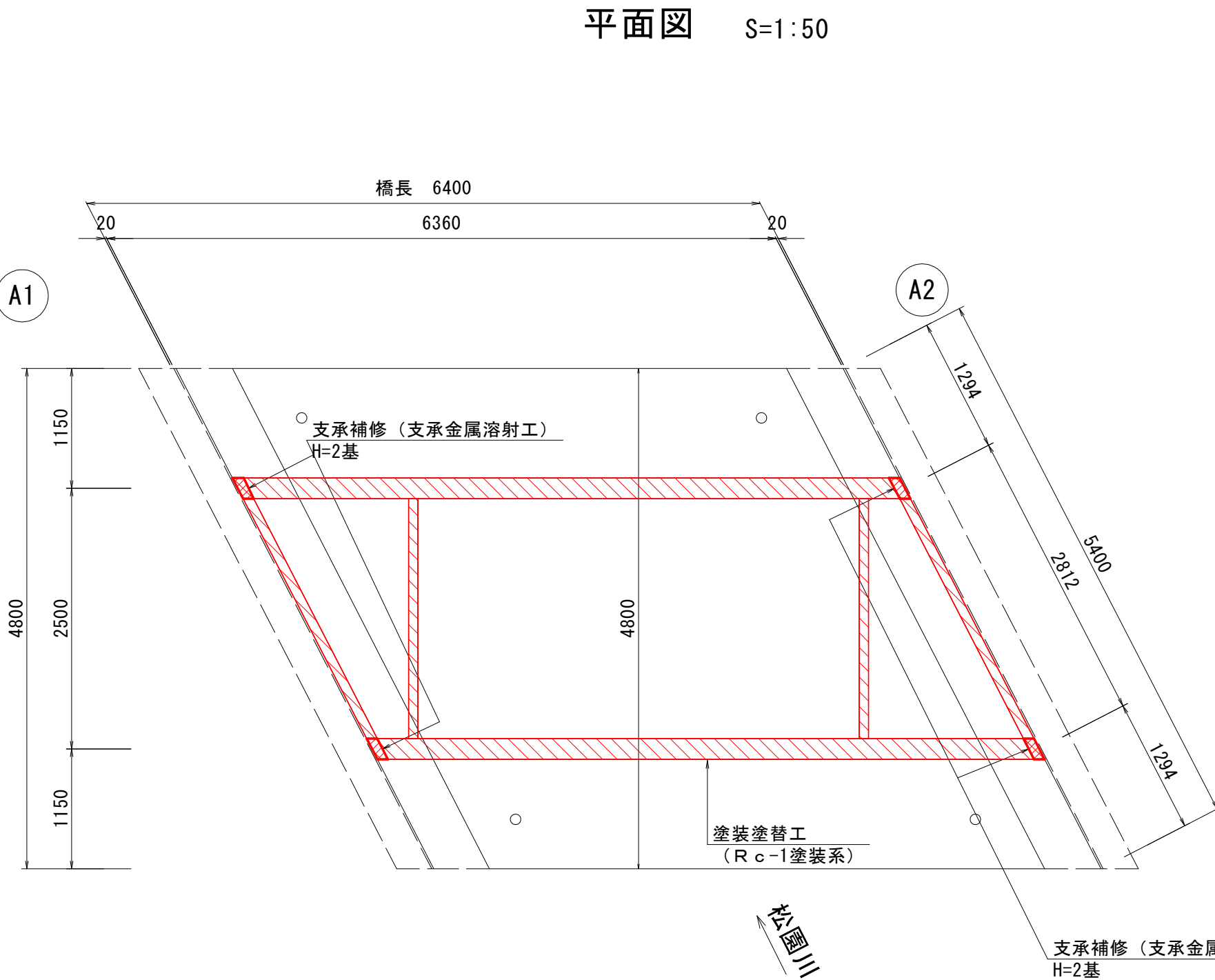
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		漏 水	
剥 離		腐 食	
鉄筋露出		う き	
遊離石灰		そ の 他	

勢面野橋 塗装塗替工・支承金属溶射工図



詳細図 S=1:20

面取り加工詳細図

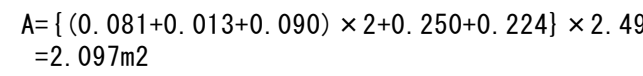
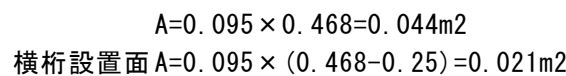
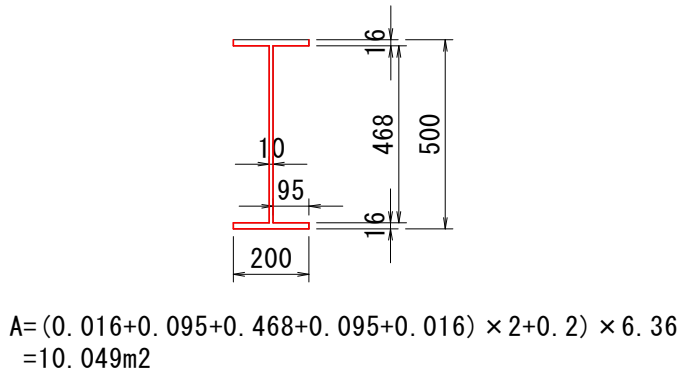


主桁断面図

垂直補剛材

横桁断面図

主桁下フランジ



塗装構成図

Rc-I 塗装系 (スプレー)

上塗：弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗 (140g/m²)
中塗：弱溶剤形ふっ素樹脂塗料中塗 (170g/m²)
下塗：弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (240g/m²)
下塗：弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (240g/m²)
防食下地：有機ジンクリッチペイント (600g/m²)
素地調整 1 種 (プラスト工法 ISO Sa 2 1/2)



支承補修工 数量計算

(1橋当り)

項目	仕様	計算式	単位	数量
支承補修工	支承金属溶射工	2+2=4	基	4

塗装塗替工 数量計算

(1橋当り)

項目	仕様	計算式	単位	数量
塗装塗替工	Rc-I 塗装系 (スプレー)	主桁部 ・ 10.049 × 2 = 20.10m ² 中間横桁部 ・ 2.097 × 2 = 4.194m ² ・ 0.054 × 4 = 0.216m ² ・ 0.021 × 4 = 0.084m ² 4.194 + 0.216 + 0.084 = 4.494m ² 端横桁部 ・ 1.964 × 2 = 3.928m ² ・ 0.044 × 8 = 0.352m ² ・ 0.012 × 8 = 0.096m ² 3.928 + 0.352 + 0.096 = 4.376m ² 排水管部 ・ 0.057 × 4 = 0.228m ² 合計 20.10 + 4.49 + 4.38 + 0.23 = 29.20m ²	m ²	29.2
	曲面加工 (R面取り)	主桁：6.36 × 2 × 4 = 50.88	m	50.9

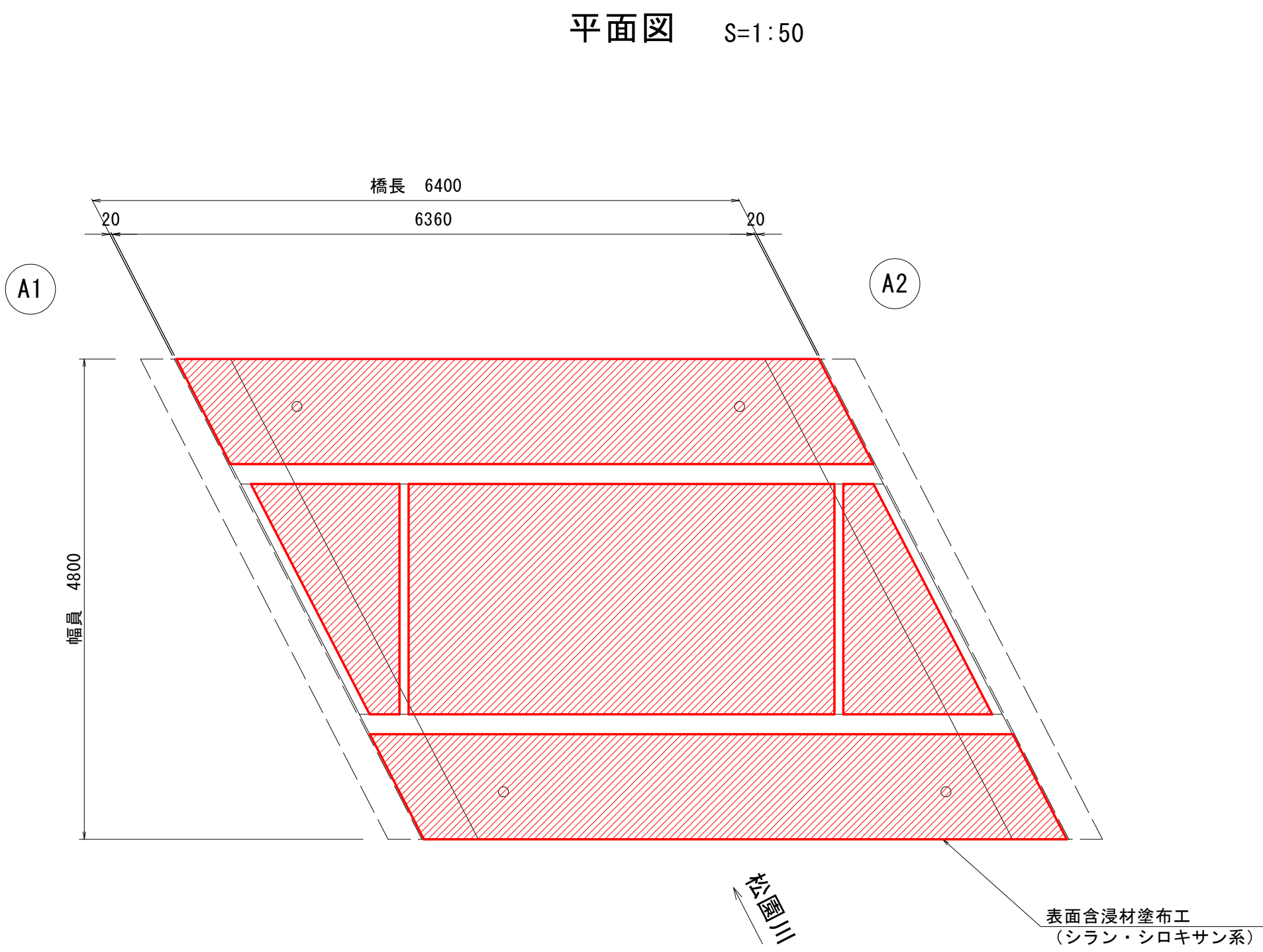
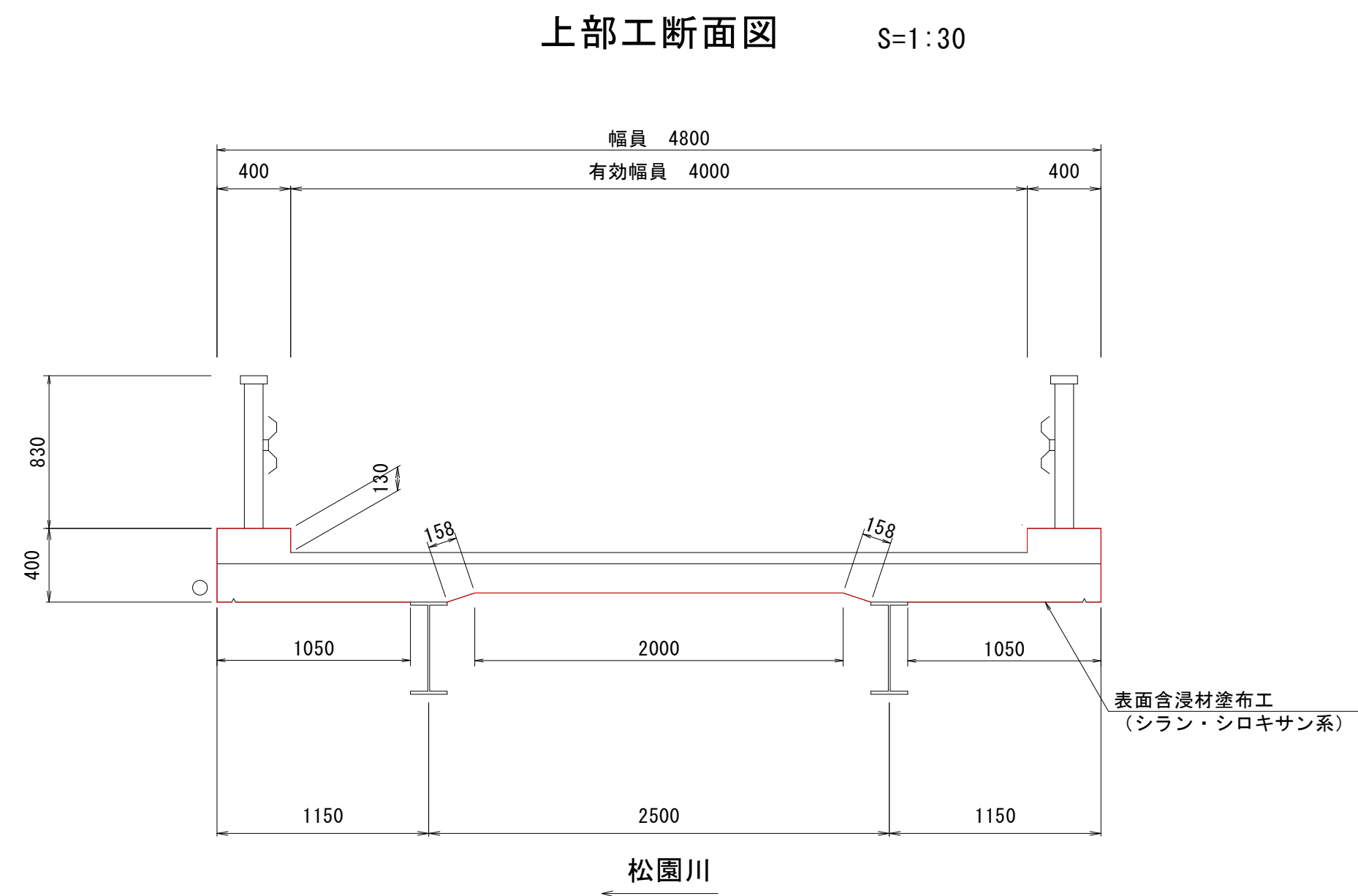
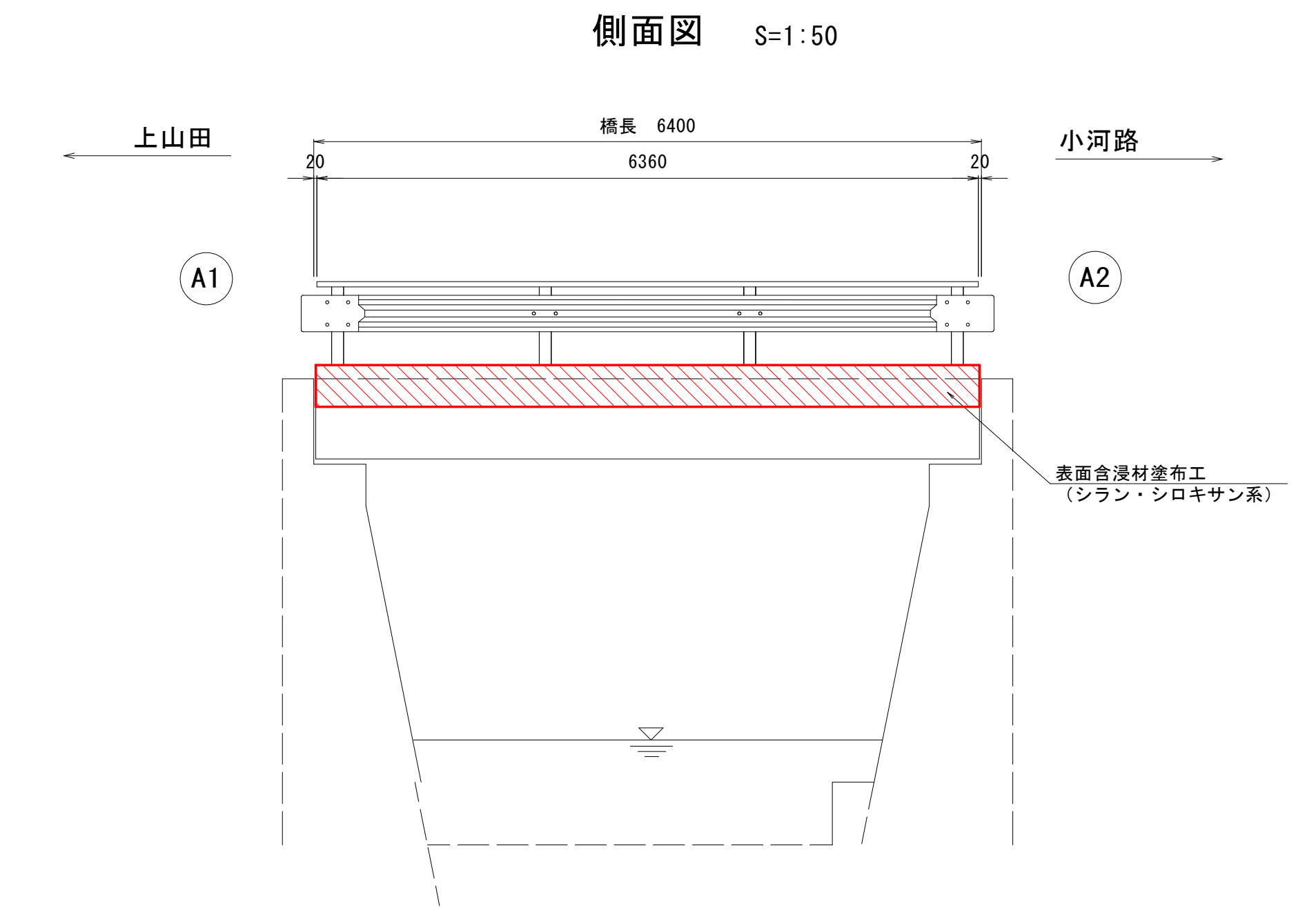
注記)

- 1) 施工前に必ず、現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
- 2) 排水管は存置部以外を切断すること。

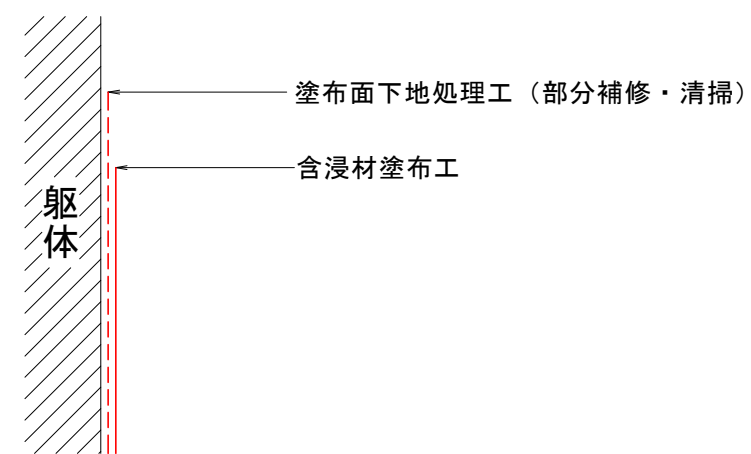
南九州市

工事名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋補修工事		
河川・路線名	田之頭線		
工事箇所	南九州市	川辺町	上山田 地内
図面種類	勢面野橋	塗装塗替工図	支承金属溶射工図
縮尺	図示		
図面番号	全 10 葉	第 5 号	

勢面野橋 表面含浸材塗布工図



表面含浸材(シラン・シロキサン系)
(参考図)



※シラン・シロキサン系改質材塗布

- コンクリート表面の水分率を測定し、表面水分率5%程度の環境下で施工を行う。
- 塗布に先立って、圧縮空気、ワイヤブラシ、サンダーケレン、高圧水洗浄等によるコンクリート表面の下地処理及び清掃を行うこと。
- 水分率の測定回数は、仕様書を原則とするが、その日の気候変化や対象コンクリート構造物の状況を考慮して、
1日最低、朝・昼の作業開始前に測定する。測定は1回当り3ヶ所以上とする。
- 塗布に当たっては、エアスプレーの使用を標準とし、ノズル口径0.016mm程度を標準とする。
- エアスプレーでの塗布が困難な場合には、ウーローラー、水性ローラー等を使用する。
- 比重は約0.9g/cm3。

表面含浸材塗布工 数量計算

(1橋当り)

項 目	仕 様	計 算 式	単位	数量
表面含浸材塗布工	シラン・シロキサン系	地覆部 0.40×6.36=2.544 0.40×6.36=2.544 0.13×6.36=0.827 (2.544+2.544+0.827)×2=11.83 床板 (1.050+0.158+2.000+0.158+1.050)×6.36 =28.09 合計 11.83+28.09=39.92	m2	39.9
含浸材	塗布量：0.22kg/m2(参考)	39.9×0.22=8.78 ロス率15% 8.78×1.15=10.10	kg	8.8

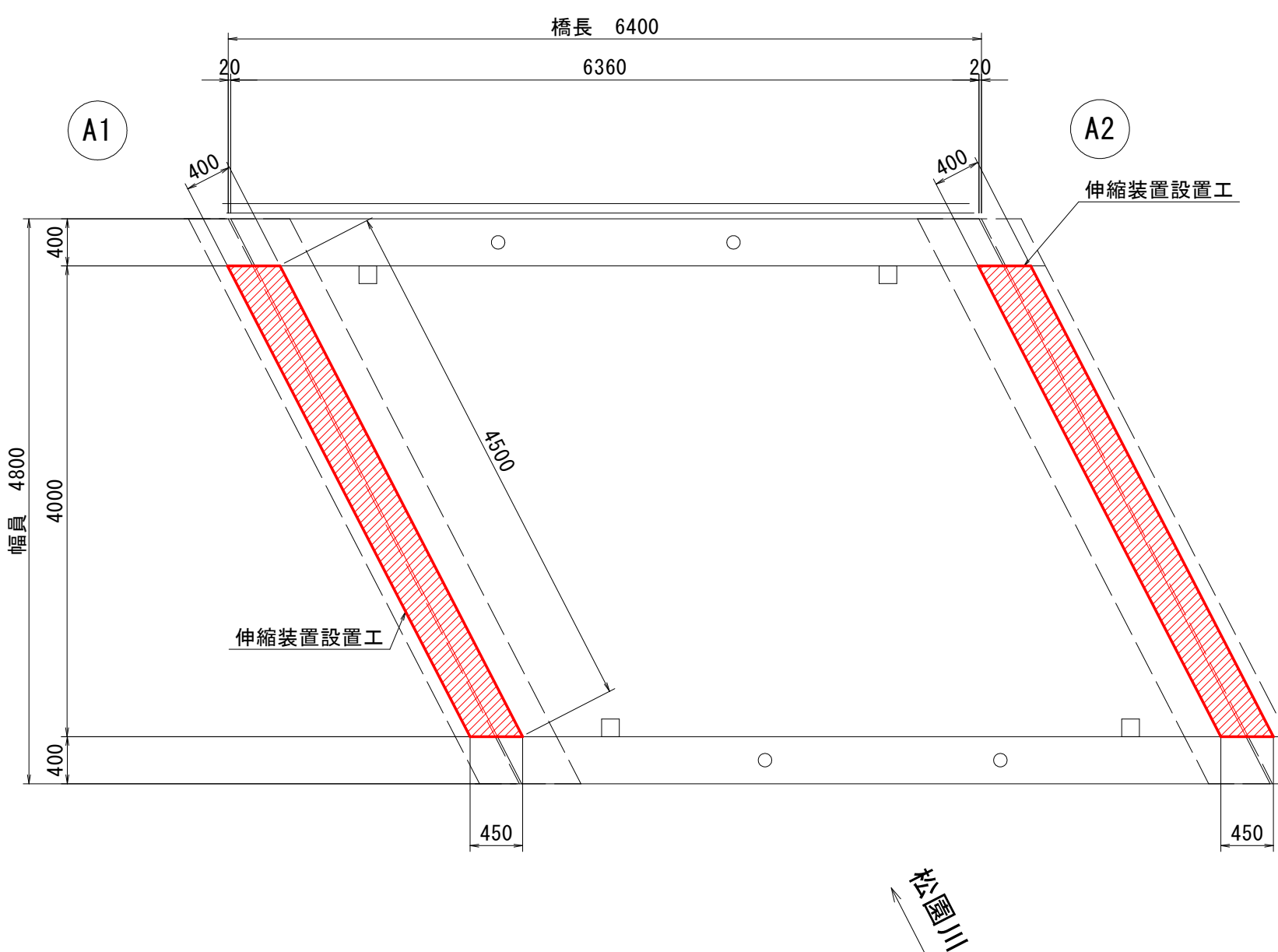
注記)

- 施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
- 表面含浸材塗布工は、損傷補修工施工、橋面防水工後に行うこと。

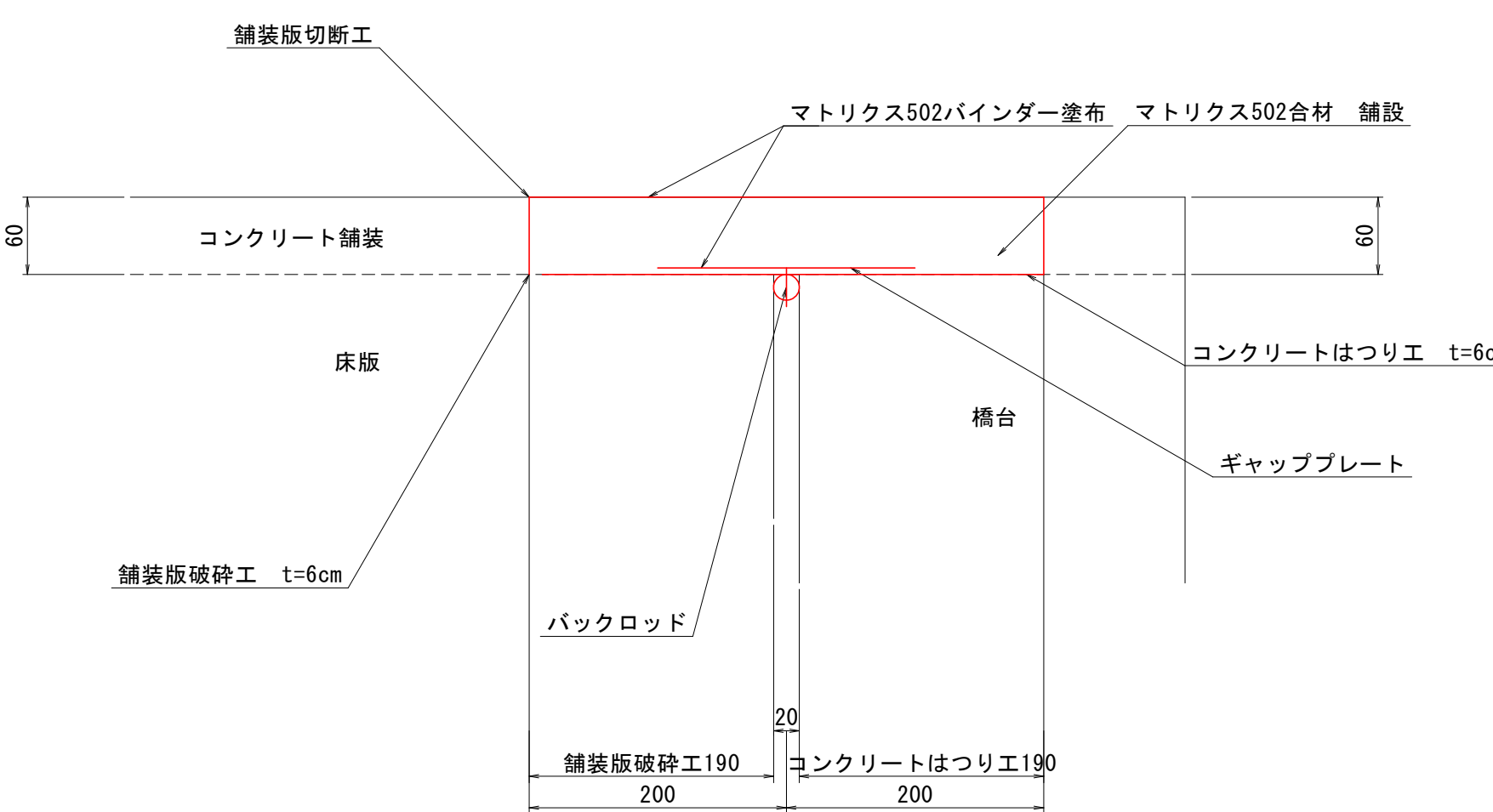
南 九 州 市				
工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋修工事			
河川・路 線 名	田 之 頭 線			
工 事 箇 所	南九州 郡 市	川辺 町	上山田 地内	
図 面 種 類	勢 面 野 橋 表 面 含 浸 材 塗 布 工			
縮 尺	図 示			
図 面 番 号	全	10	葉 第	6 号

勢面野橋 伸縮装置設置工・橋面防水工図

平面图 S=1:5



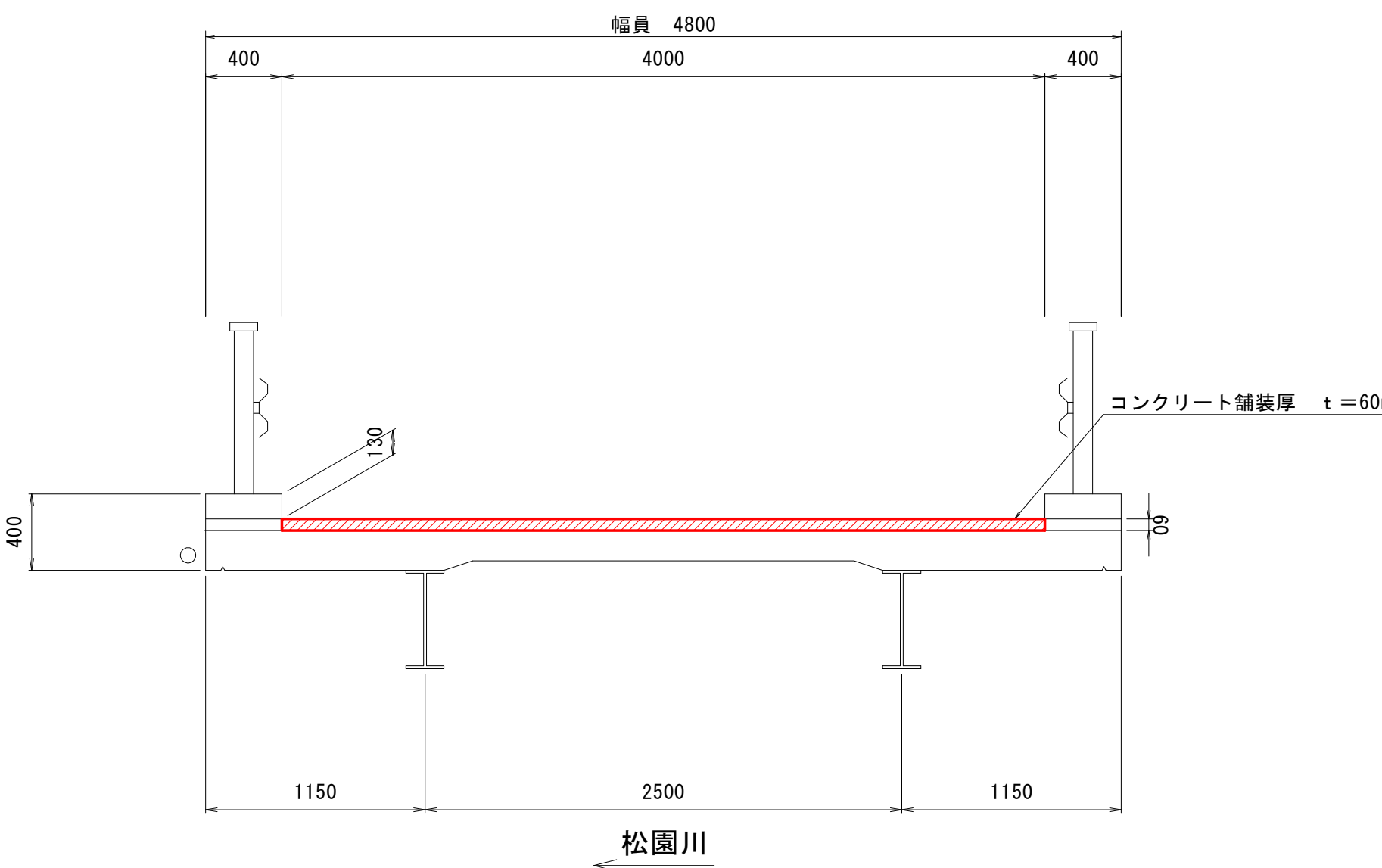
伸縮装置詳細図 S=1:
(参考図)



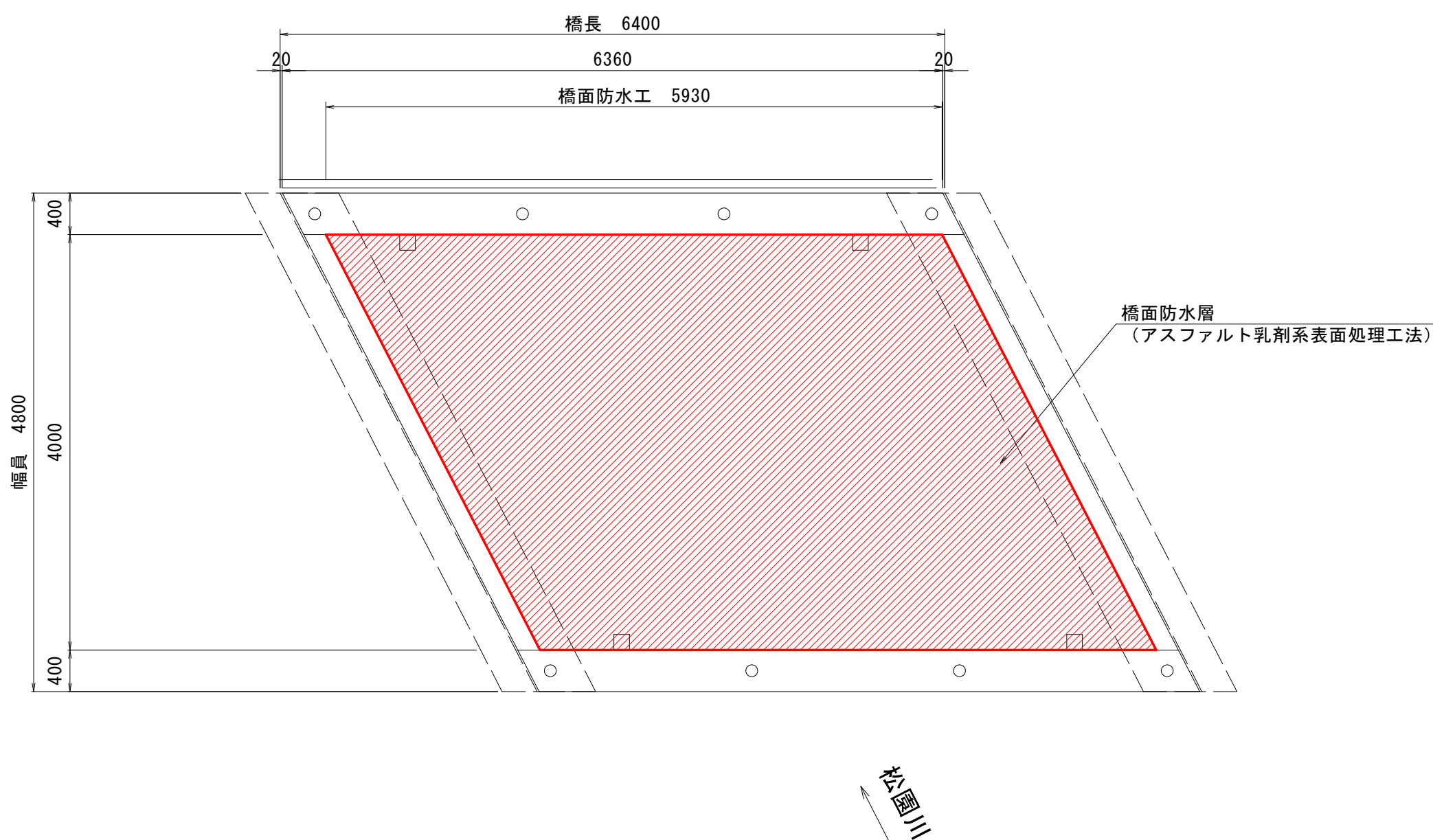
伸縮装置設置工 数量計算 (1橋当り)

項 目	仕 様	計算式	単位	数量
伸縮装置設置	埋設型	$4.5 \times 2 = 9.0$	m	9.0
穀運搬	コンクリート	$4.0 \times 0.45 \times 0.06 \times 2 = 0.216$	m3	0.22

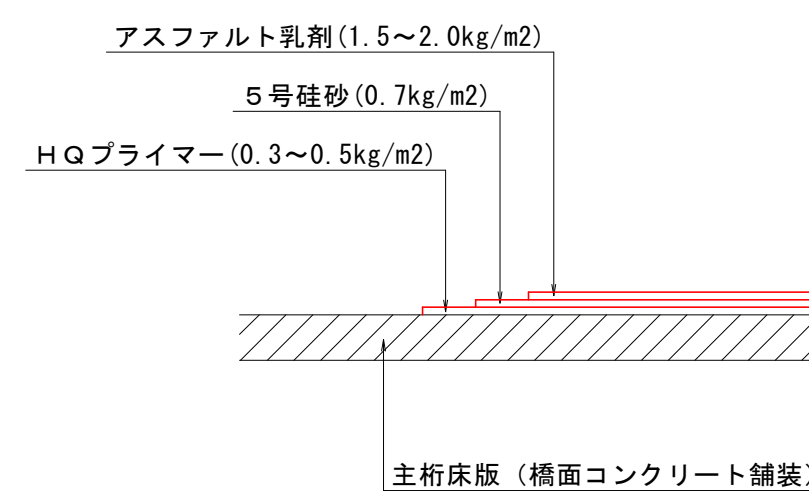
上部工断面图 S=1:3



平面图 S=1:5



橋面防水工 標準構成図
(参考図)



橋面防水工 数量計算 (1橋当り)

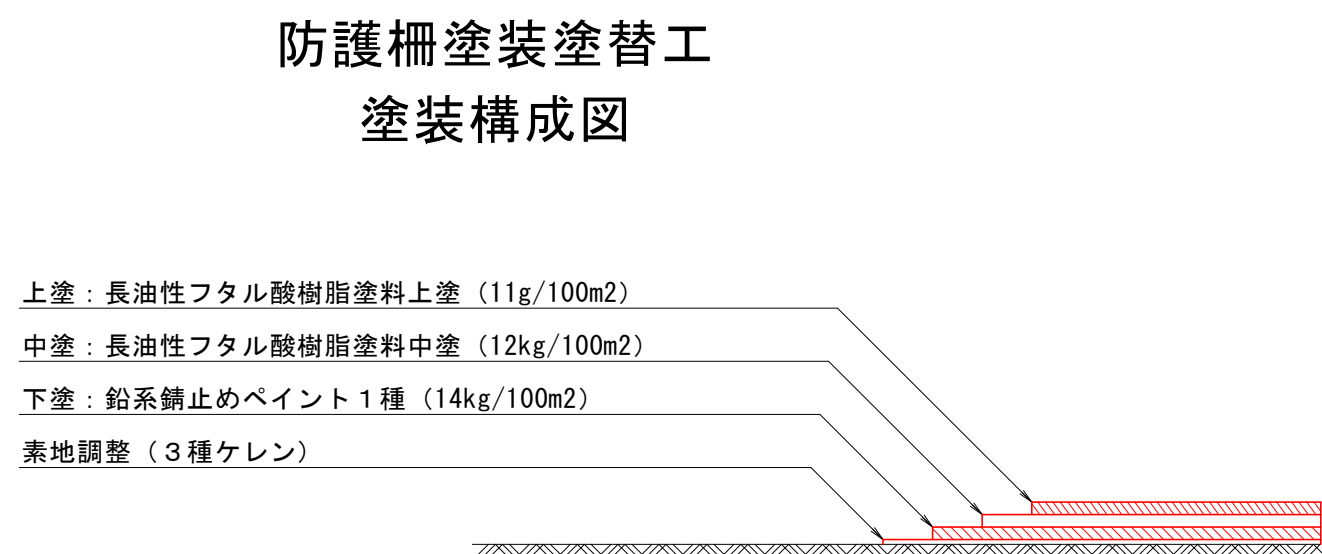
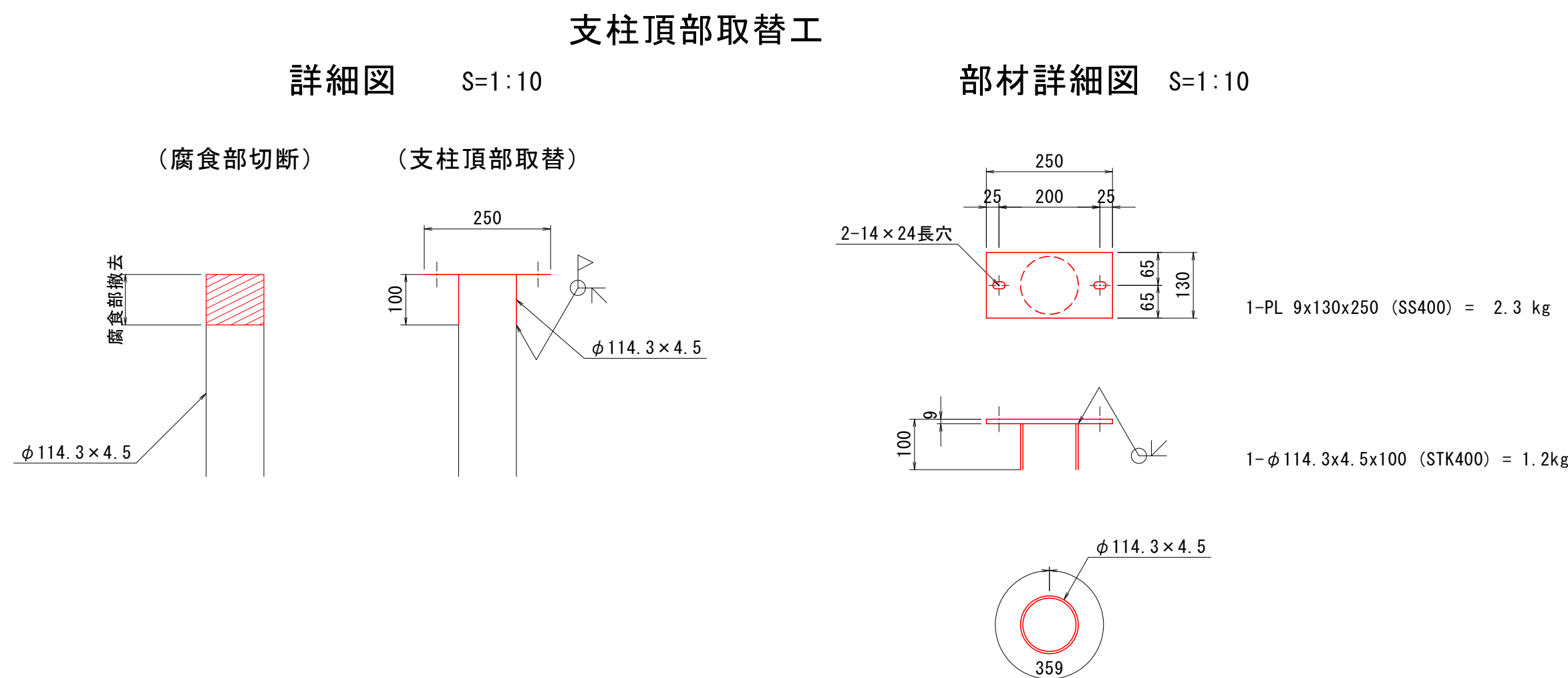
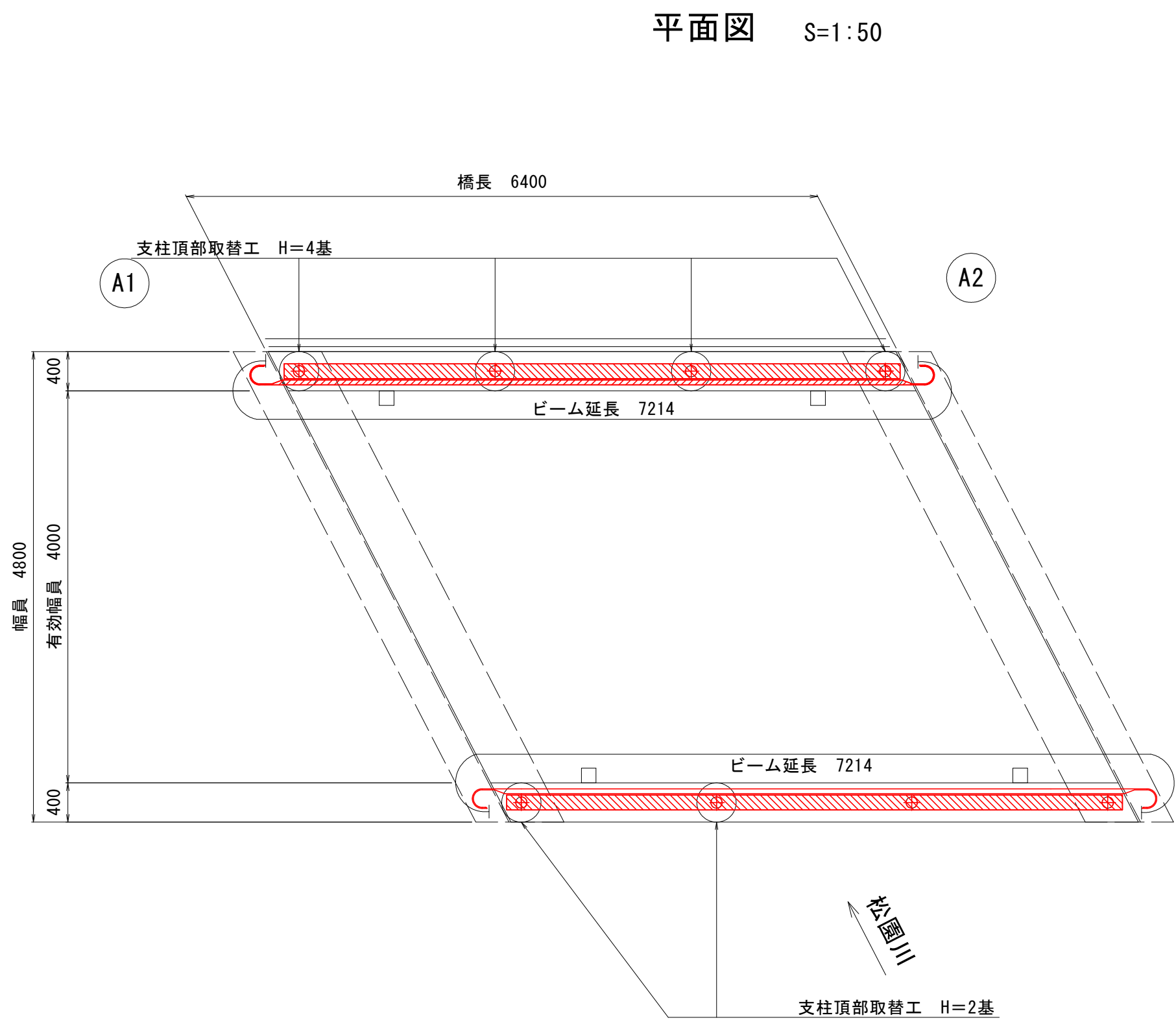
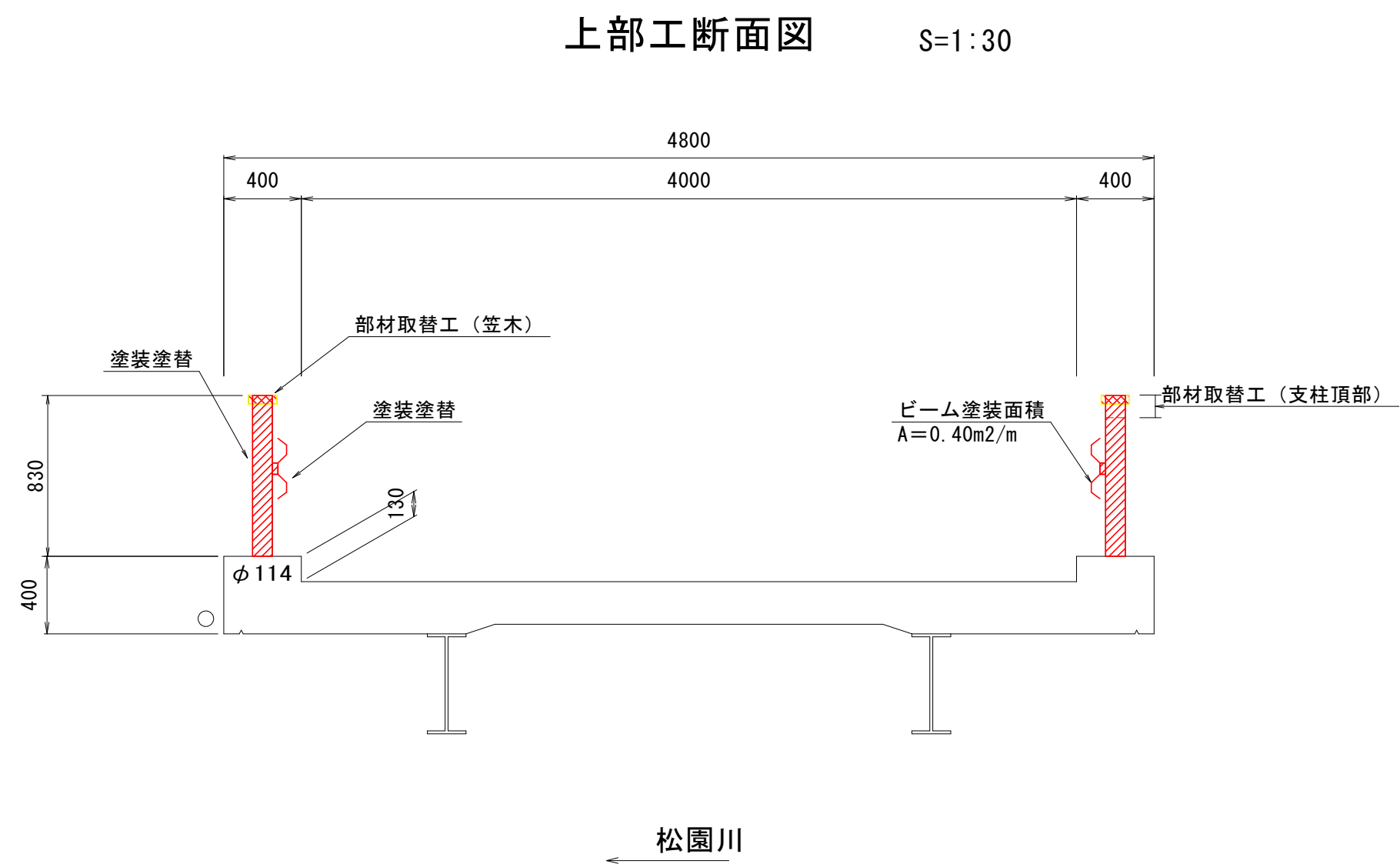
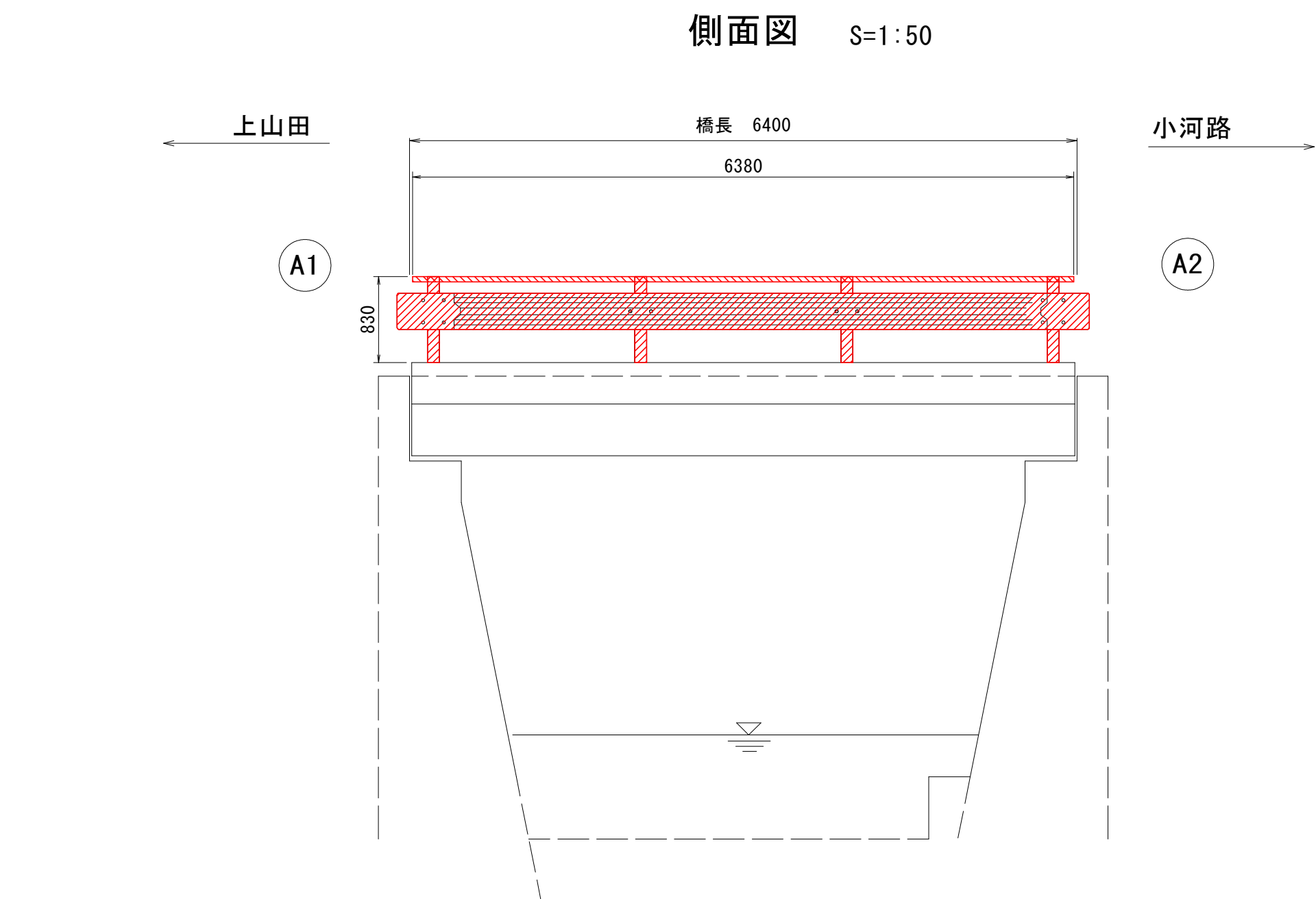
項 目	仕 様	計算式	単位	数量
橋面防水工	アスファルト乳剤系 表面処理工法	$(5.93 \times 4.00) - (0.15 \times 0.15 \times 4) = 23.63$	m2	23.6

注記)

- 1) 施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
- 2) 橋面防水工は、伸縮装置設置工の施工後に、行うこと。

南 九 州 市				
工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野補修工事			
河川 路 線 名	田 之 頭 線			
工 事 箇 所	南九州 郡 (市)	川 辺 (町)	上 山 田	地 内
図 面 種 類	勢面野橋 伸縮装置設置工 橋面防水工図			
縮 尺	図 示			
図 面 番 号	全	1 0	葉 第	7 号

勢面野橋 防護柵補修工図



防護柵補修工 数量計算

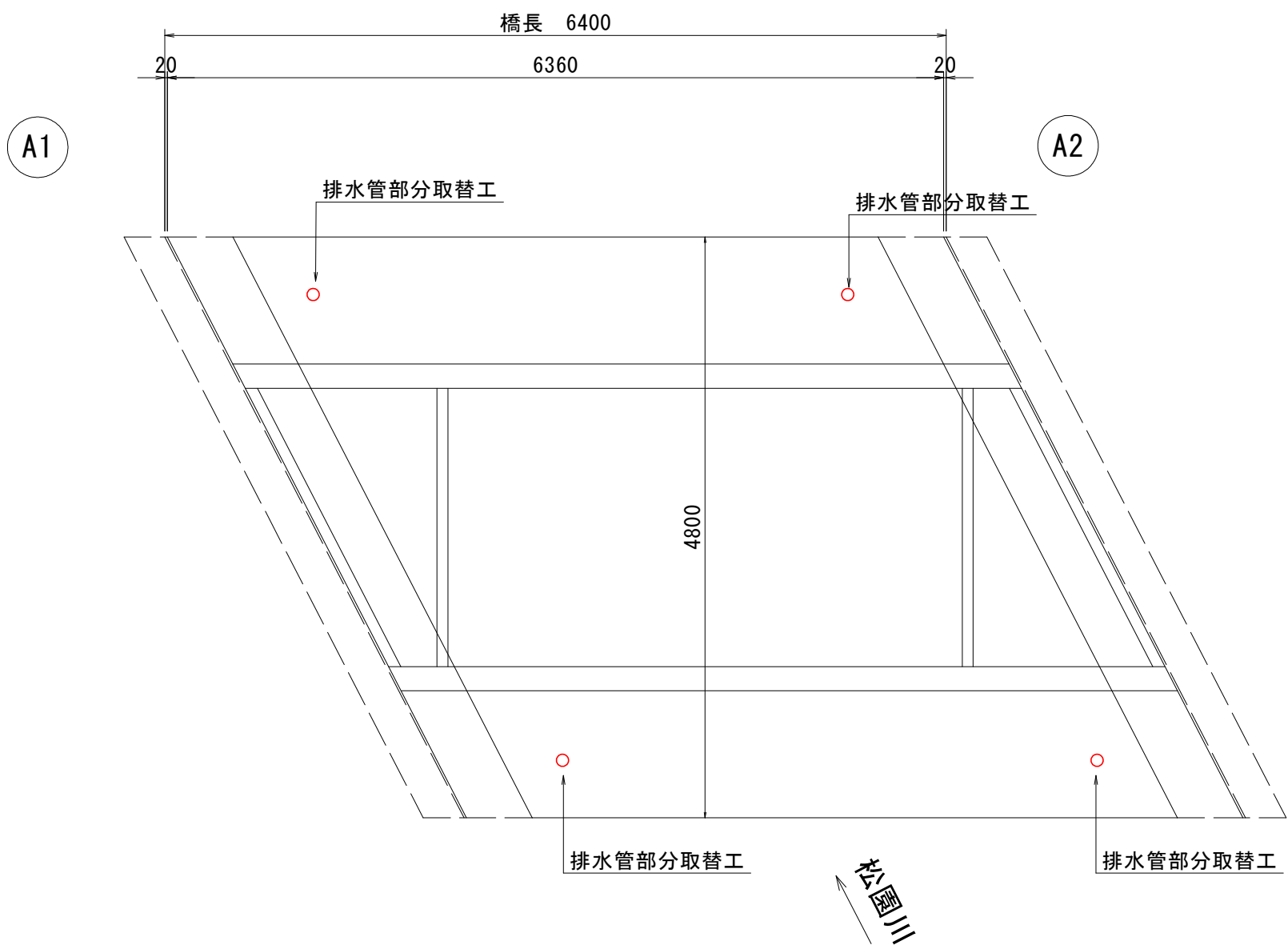
項目	仕様	計算式	単位	数量
塗装塗替工	支柱: φ114	$(0.114 \times \pi \times 0.830) \times 4 \times 2 = 2.38$	m ²	2.4
	ビーム	$0.40 \times 7.214 \times 2 = 5.77$	m ²	5.8
部材取替工	笠木	$6.38 \times 2 = 12.76$	m	12.8
	支柱: ガス切断工	$0.359 \times 6 = 2.15$	m	2.2
	支柱: 部材製作工	$4 \div 2 = 6$	基	6
	支柱: 溶接工	$0.359 \times 6 = 2.15$	m	2.2

注記)
1) 施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、製作・施工を行うこと。

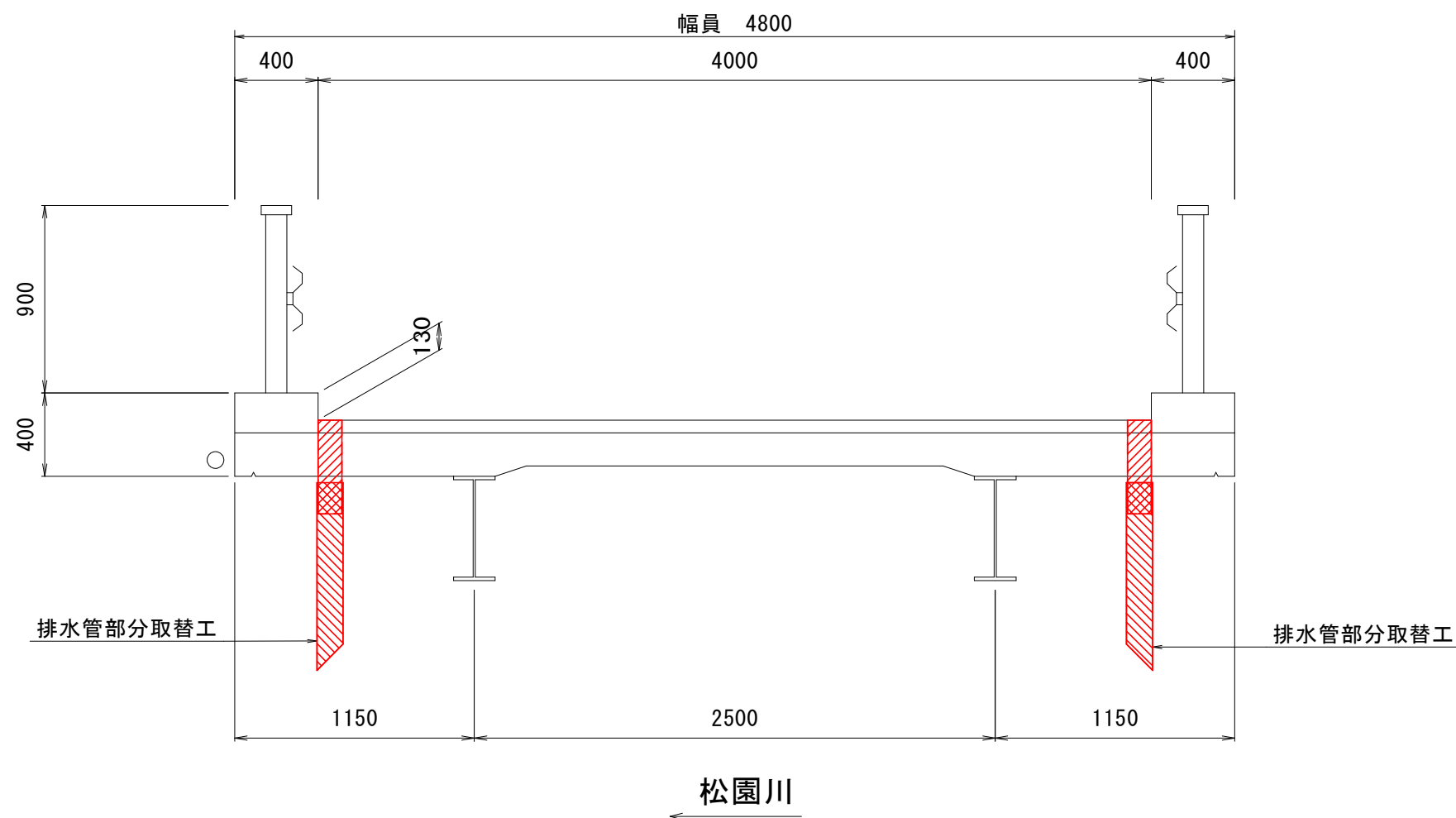
南九州市	
工事名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋修工事
河川・路線名	田之頭線
工事箇所	南九州郡川辺町上山田地内
図面種類	勢面野橋 防護柵補修工図
縮尺	図示
図面番号	全 10 葉 第 8 号

勢面野橋 排水管取替工図

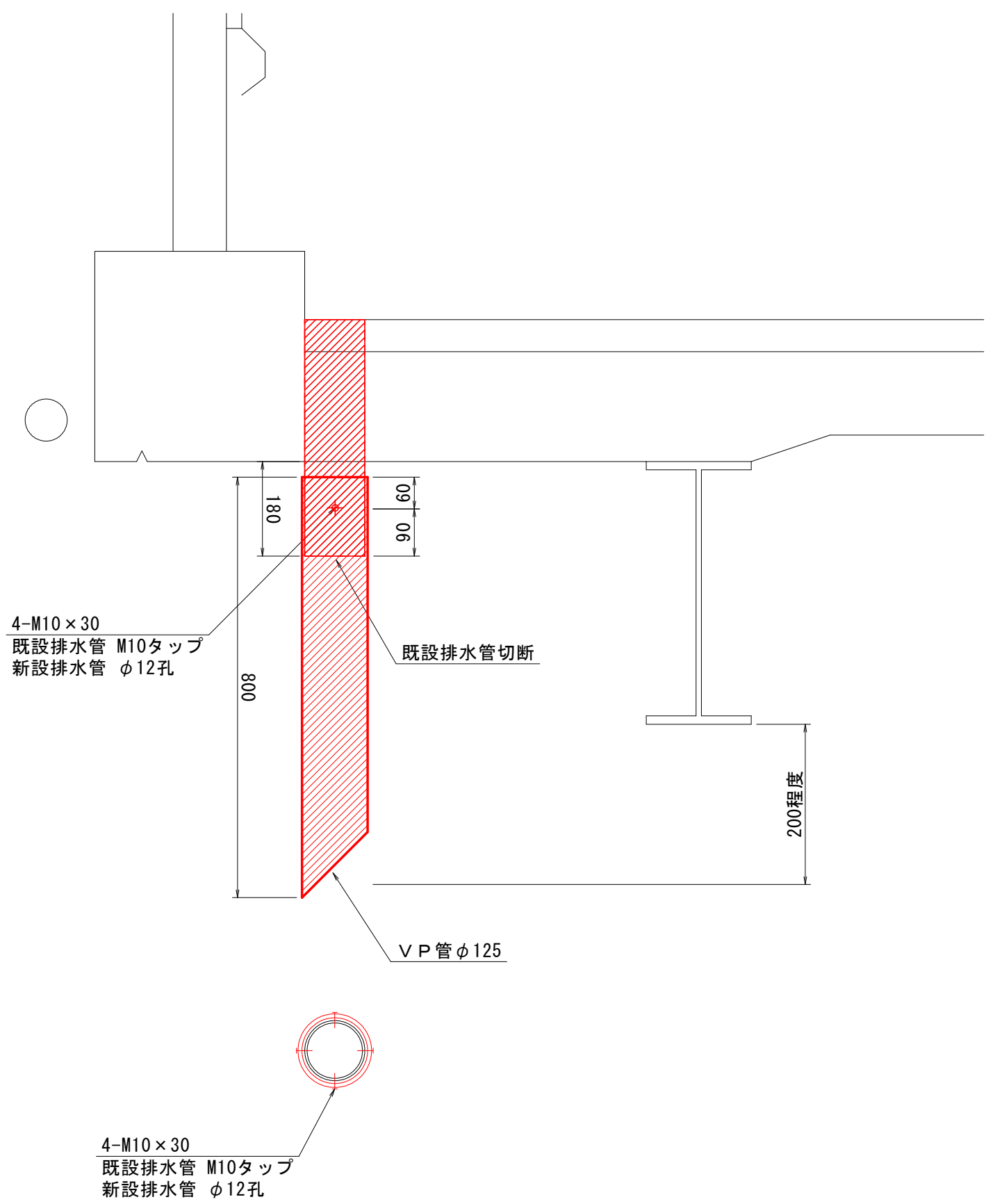
平面図 S=1:50



上部工断面図 S=1:30



排水管部分取替工詳細図 S=1:10



排水管部分取替工 数量計算

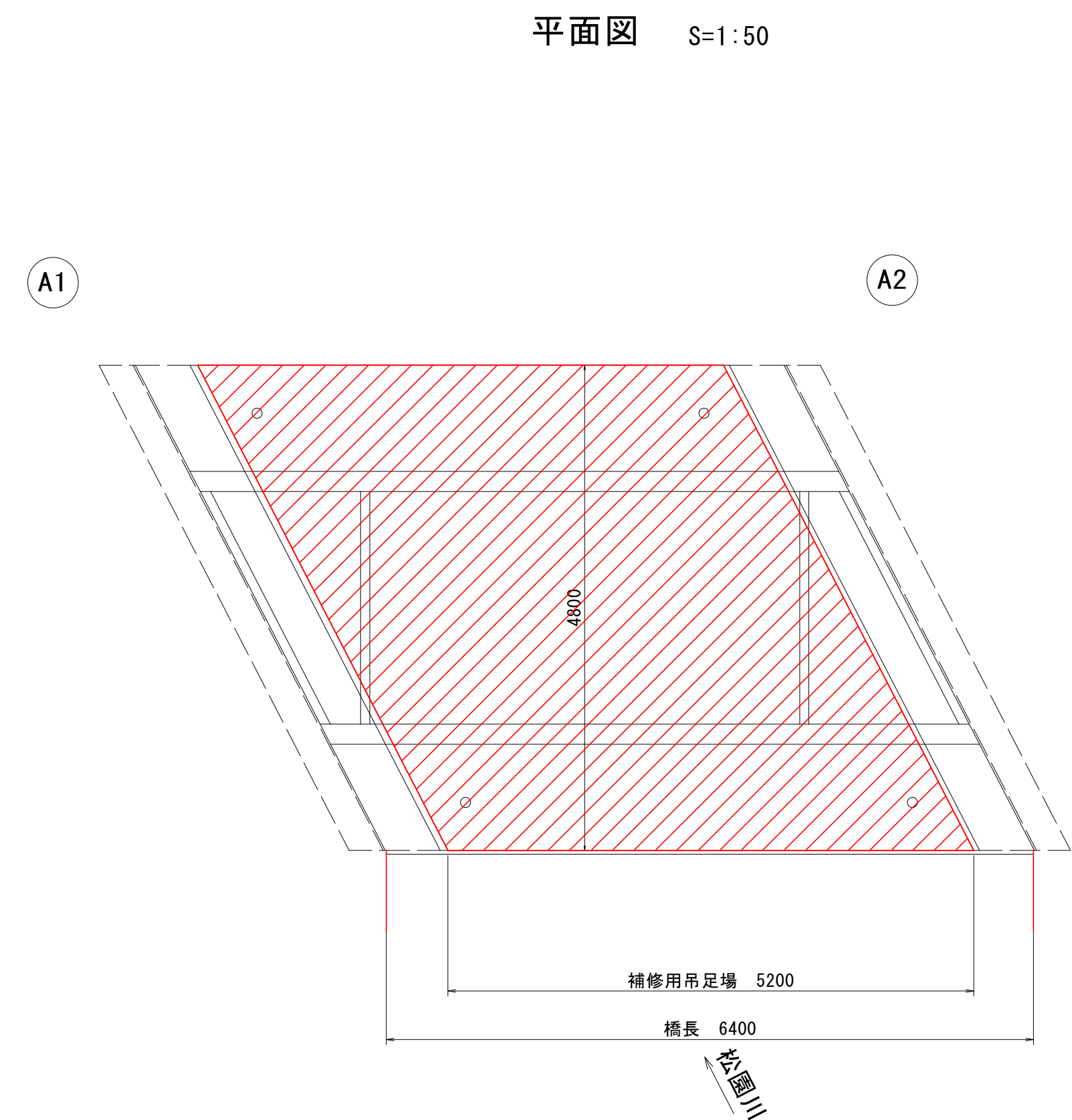
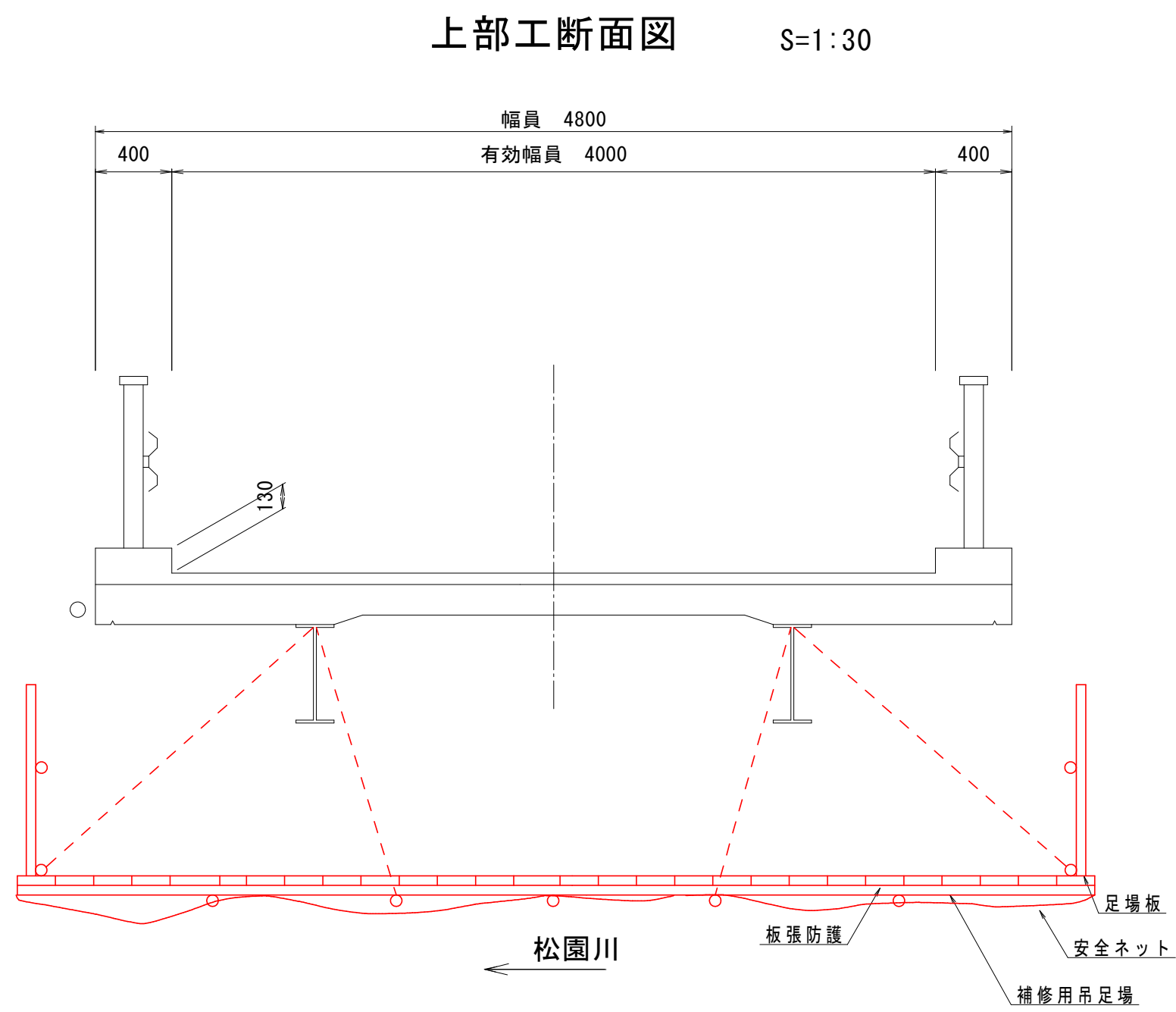
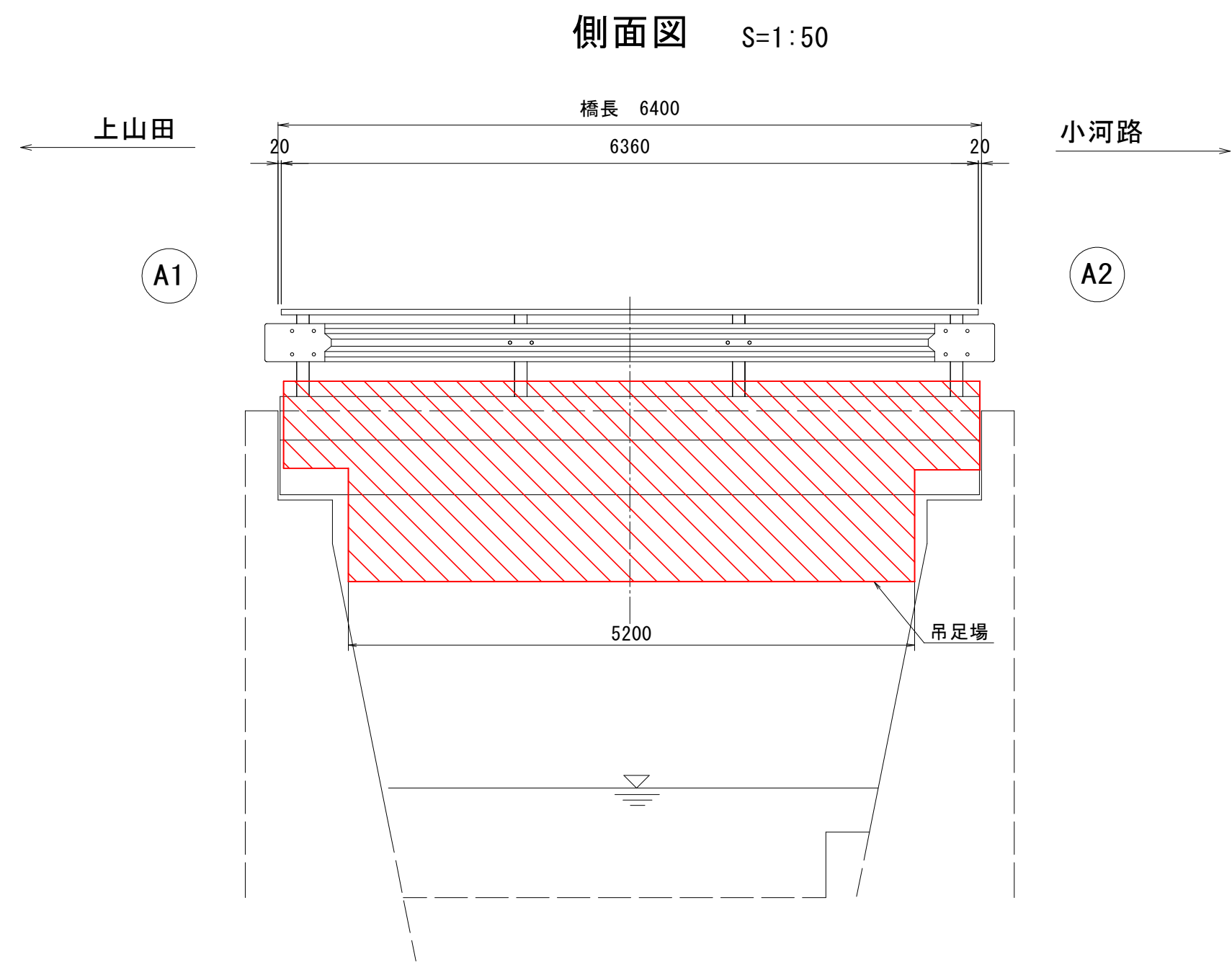
(1橋当り)

項 目	仕 様	計算式	単位	数量
橋梁排水管設置工	φ125	4.5×2=9.0	箇所	4
排水管	VP管 φ125	0.800×4=3.2	m	3.2
ステンレスボルト	六角M10×30 SUS304	4×4=16	本	16
排水管切断工	φ100	π×0.1098×4=1.38	m	1.4

- 注記)
- 1) 施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、施工を行うこと。
 - 2) 既設管切断位置は、現地にて確認のうえ決定すること。
 - 3) 既設管の存置部分は、塗装差し替えを行うこと。数量は塗装差し替えで計上している。別工事とする場合は、別途計上すること。
 - 4) 接続する排水管は、桁下面より200mm程度の間隔をとること。
 - 5) 鋼桁側のネジ切り等の施工が困難な場合は、3方向でも可とする。

南 九 州 市	
工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野橋修工事
河川・道路 線 名	田 之 頭 線
工 事 箇 所	南九州 郡 川辺 町 上山田 地内
図 面 種 類	勢 面 野 橋 排 水 管 取 替 工
縮 尺	図 示
図 面 番 号	全 10 葉 第 9 号

勢面野橋 仮設工（参考図）



仮設工 数量計算

(1橋当り)

項 目	仕 様	計算式	単位	数量
補修用吊足場	TYPE A1 補修用吊足場 板張防護 シート張防護	$4,800 \times 5,200 = 24,96$	m2	25.0
養生シート工	湿式塗膜剥離剤工用 ブラスト用		m2	25.0

注記)
1) 施工前に必ず現地寸法実測を行い、図面照合等確認後、
施工を行うこと。
2) 詳細は、水位や安全性・施工性を考慮して、
協議により決定すること。

南 九 州 市	
工 事 名	道路メンテナンス事業 市道田野頭線・勢面野補修工事
河 川 路 線 名	田 之 頭 線
工 事 箇 所	南九州 郡 川 辺 町 市 村 上山田 地内
図 面 種 類	勢 面 野 橋 仮 設 工 （ 参 考 図 ）
縮 尺	図 示
図 面 番 号	全 10 葉 第 10 号